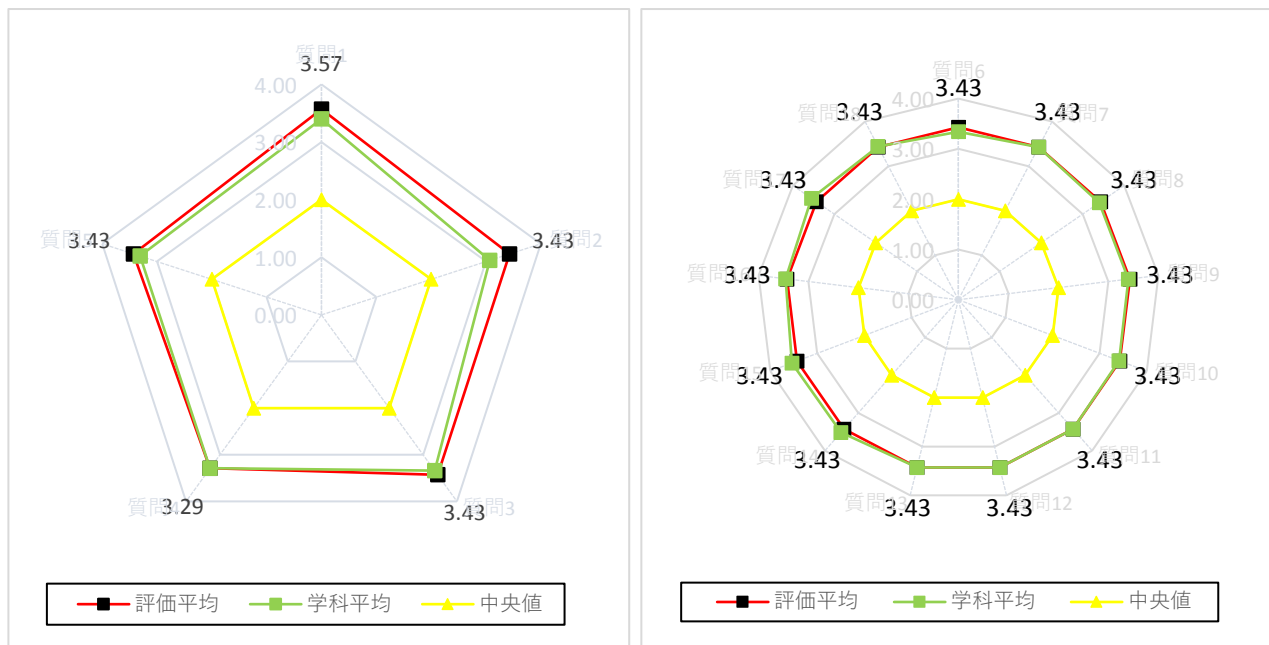


学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部 リハビリテーション学部	社会福祉 リハビリテーション		あすなろう I 基礎 (初 年次教育含)	35名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

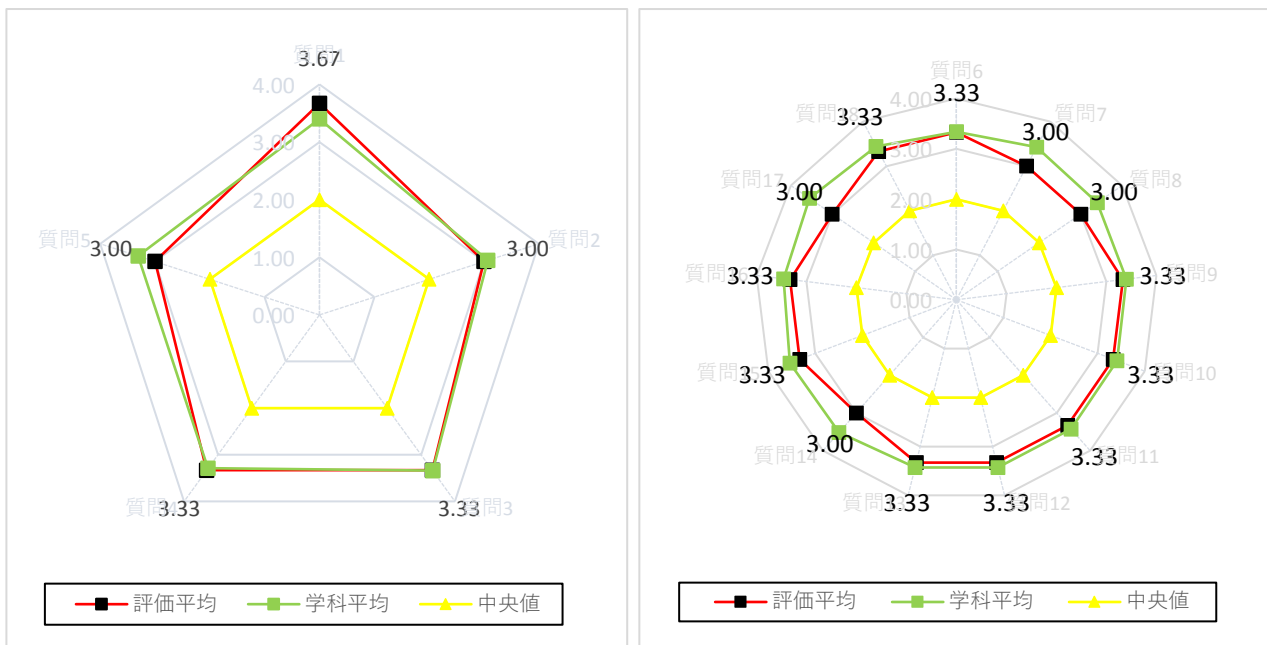
1年生の最初の学習内容として意義深いものになっていると思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

今後、より一層充実した学習機会を提供したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		あすなろう I 基礎 (初年次教育含)	13名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

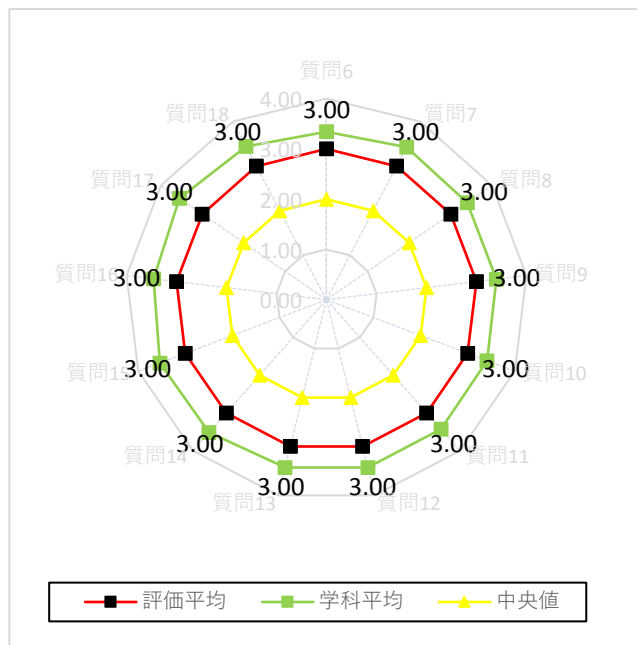
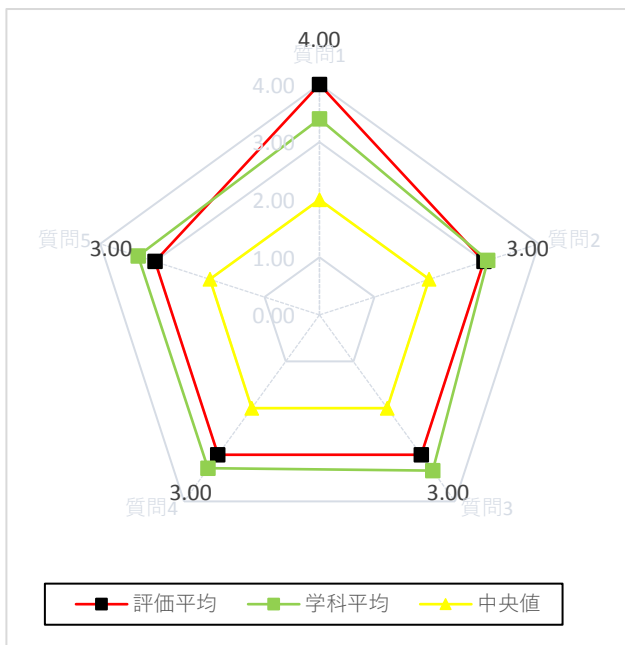
到達目標の明確化、興味関心の喚起、学生への応答、授業に対する熱心な取り組みの4項目で学科平均値を下回っていること真摯に受け止めたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生とのかかわりをもっと密にし、評価全体を向上させたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		あすなろうⅡ 応用（地域課題）	1名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

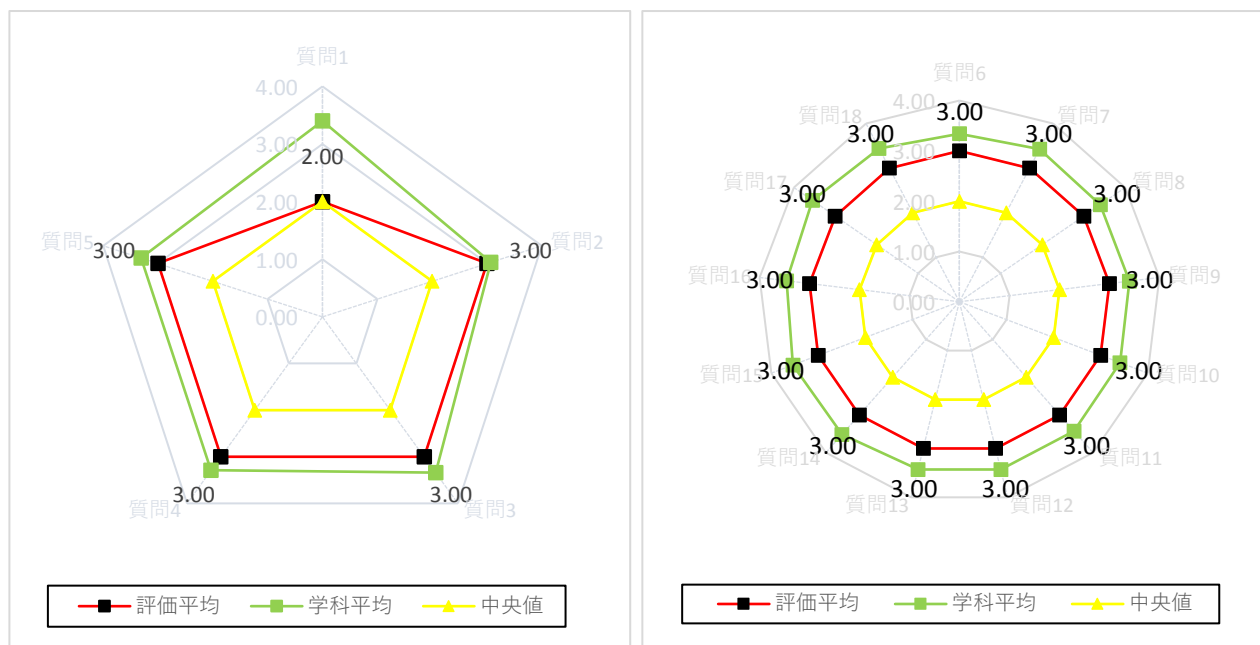
受講者が少ないため、評価が難しい。

(3) 次年度に向けての取り組み

受講人数を増やせるよう学生に意識付けをしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		あすなろう体験Ⅲ（応用実践）	8名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

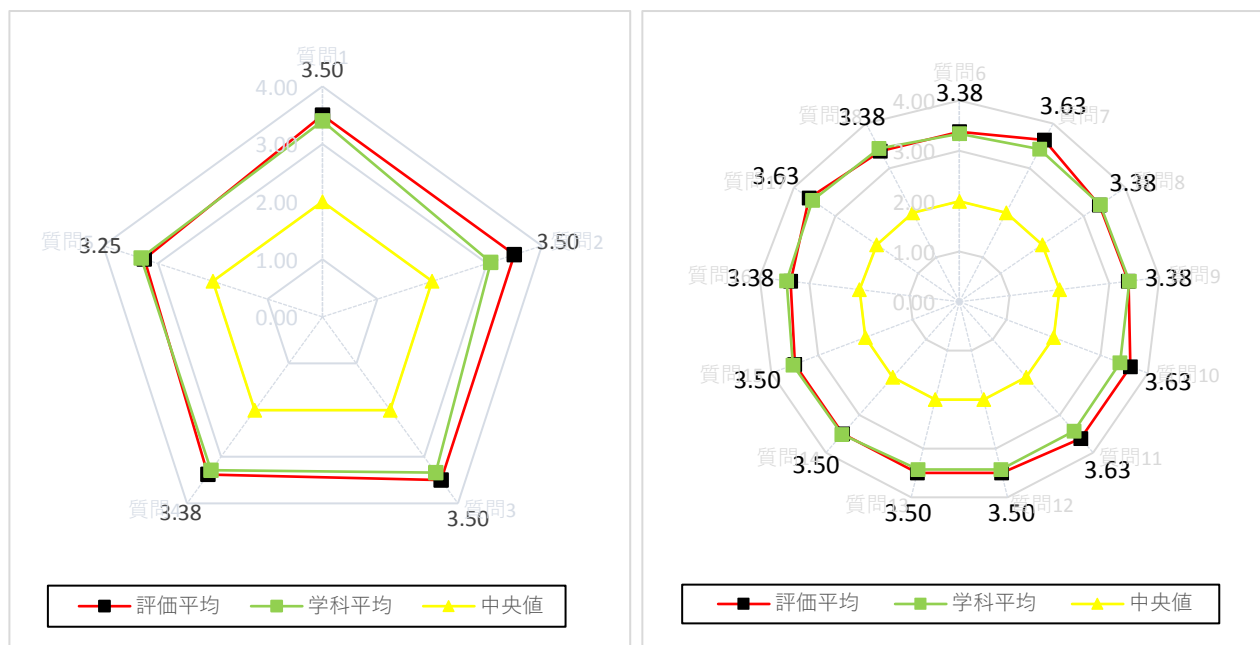
地域活動、インターンシップ系の科目であるので、この質問内容は評価に適していないと考える。

（３）次年度に向けての取り組み

地域活動、インターンシップに対する学生の意識を高めるとともに、より充実した地域活動、インターンシップが行えるよう環境整備に取り組んでいく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		Basic English II	32名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

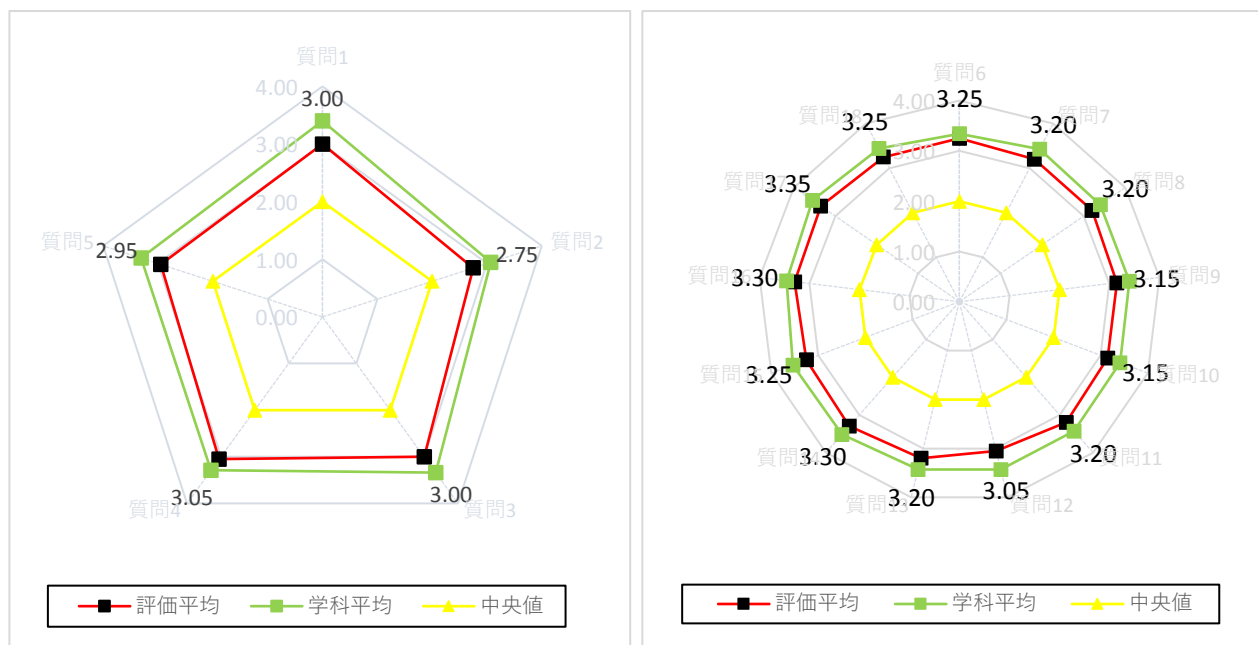
概ね学部平均に沿った数字がでてきているということで、学生は一定程度合いで充実した授業を受けることができたのではないかと考えている。語彙力、文法力育成に力を入れたメニューになっているところが少しハードルが高いかと思っていたが、どちらかといえば前期のGlobal Englishよりも組みやすかったか、評価の数字はこちらのほうが良いようだ。とはいえ、やはり少し英語が苦手な学生にはとても楽しい授業だったという評価にまでは至らないようである。

(3) 次年度に向けての取り組み

できれば英語に苦手意識を持つ学生でも取り組みやすいよう教材や学習方法などを工夫してもっと積極的に学習を進められるようにしていきたい。語彙の学習にしても文法の学習にしても、グループワークを増やしてお互いにチェックをさせるような形を作っていくことを考えている。
追記：本年度は遠隔授業が進行中。こまめな学生対応を心がけている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		Global English II	32名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

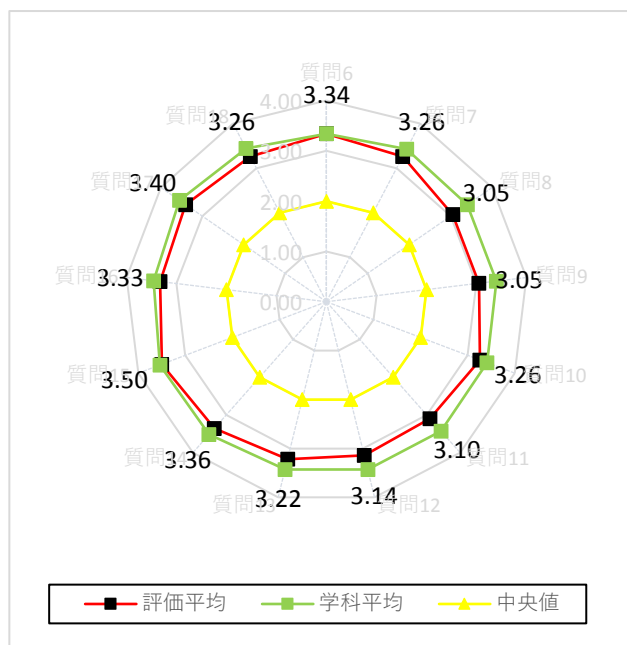
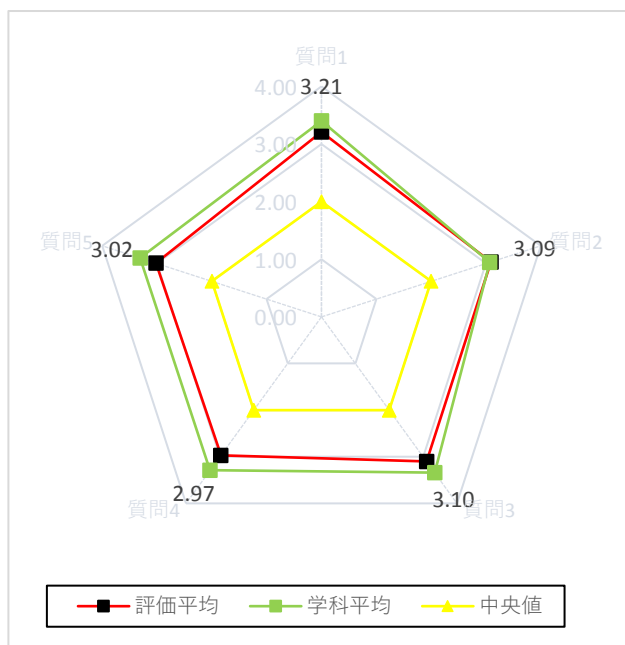
もう一つのGlobal English IIと同じメニューであるにもかかわらずこちらのほうはかなり数字が低いことを考えると、やはり英語が苦手という学生にはこのメニューがそれなりに負担になるということかと思われる。前半はインターネットを用いた動画視聴による学習、後半は動画から得たアイデアをもとにプレゼンテーションを作成するということがあったのだが、前向きに取り組みにくかったのかもしれない。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業内容自体は次年度も変わらない。しかし英語が苦手という学生にはさらに目配り、気配りをしてより能動的に学習に取り組むように支援していきたいと思う。
追記：本年度は遠隔授業が進行中。こまめな学生対応を心がけている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		情報処理入門	80名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

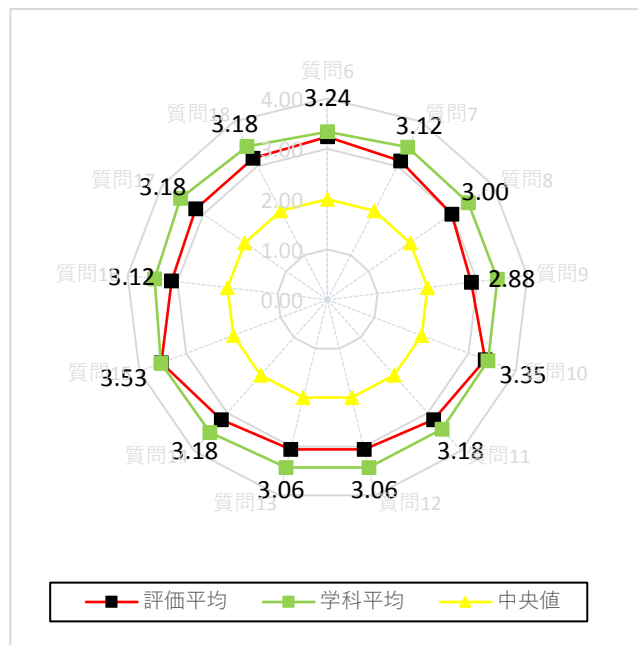
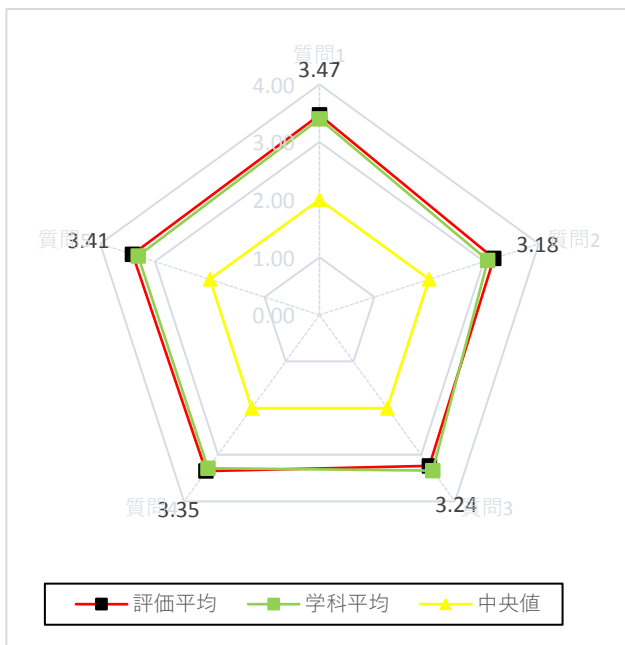
当該クラスは全体に理解が進まなかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度もわかりやすい授業を心掛ける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		情報処理基礎	78名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

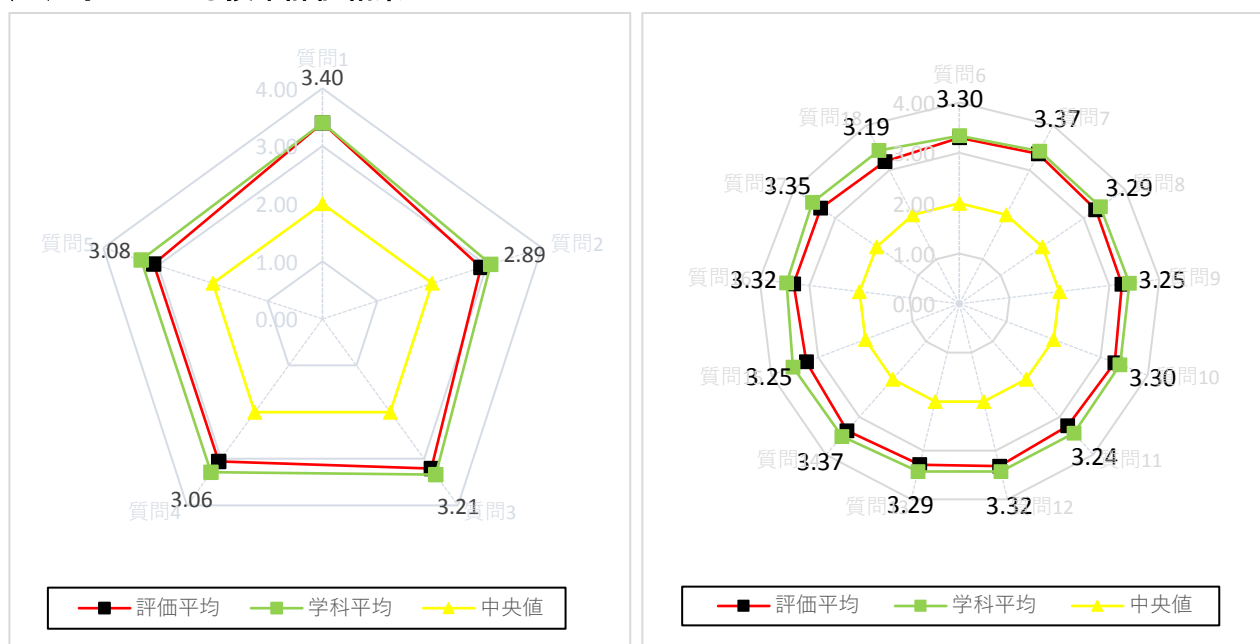
当該クラスはExcelに関する理解が進まなかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度もわかりやすい授業を心掛ける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部 リハビリテーション学部	社会福祉 スポーツ健康福祉 リハビリテーション		健康福祉概論	111名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

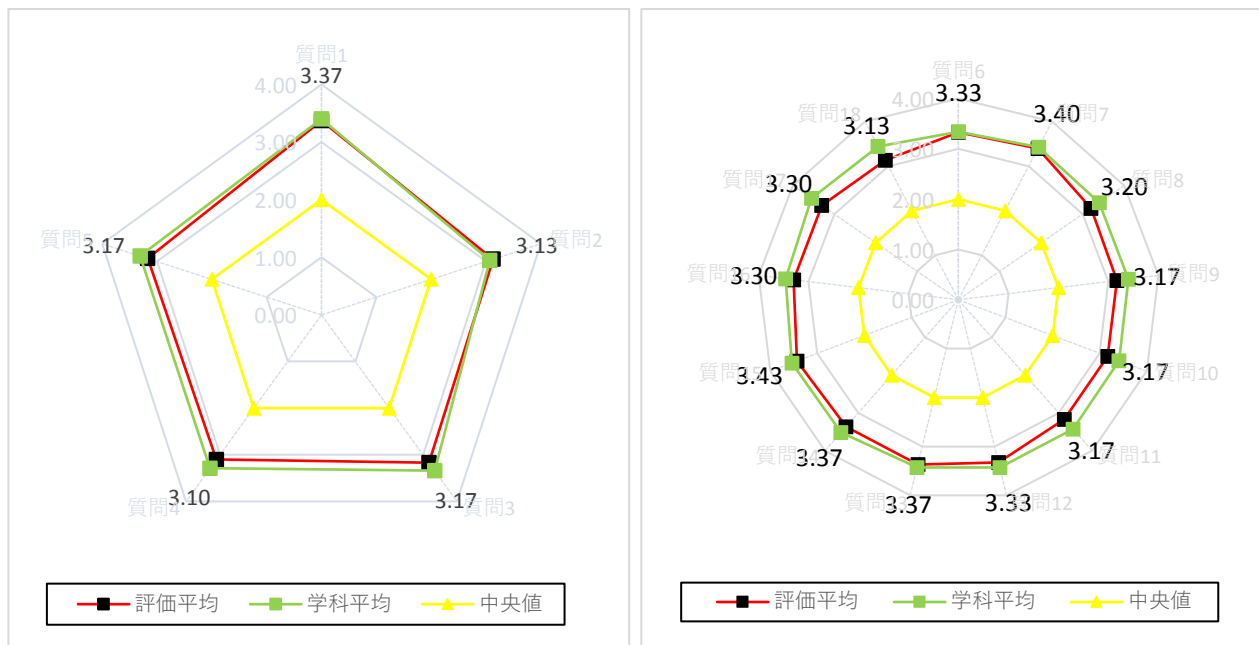
本科目はオムニバスで講義が実施された。学生自身に関する評価項目では「出席回数」についての回答が学科平均よりも高値であったが、「シラバスの活用」や「授業を理解するための工夫」については、学科平均値よりも低い結果であった。一方、教員に関する評価項目は、概ね学科平均と同程度の評価を得ることができたが、「教科書・配布資料の活用」や「公平な学生対応」については、他の項目よりもやや低い評価となったことから、オムニバスを担当した教員4名による協議が必要である。自由記述では、「4人の先生による授業で色々なことを学べて良かった」とする感想がみられ、担当教員の専門性である①社会学、②心理学、③スポーツ健康学、④社会福祉学という多様な隣接領域から構成される本科目の特徴が示され、学生に理解が及んだこととを感じる。次年度以降も同様にオムニバス形式で構成されるため、授業への各教員の熱心さと理解を促す授業実施とともに、課題である資料の活用や公平な対応を意識した授業構成に改めていきたい。学生から貴重な意見を得たことから次年度の授業改善に繋げるよう取り組みたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

本科目は、①社会学、②心理学、③スポーツ健康学、④社会福祉学という4名の担当教員が各自の分野を担当し、オムニバス形式により授業を展開している。教員に対しては概ね一定の評価を得たことから、次年度以降も継続して意識していきたい。また、上記の①～④の広範囲な領域から構成される講義のため、学生の自由記述からも、「4人の先生による授業で色々なことを学べて良かった」との感想を得ており、社会福祉を取り巻く上記①～④の分野において各教員と連携を取りながら進めていきたい。一方では、資料の活用や公平な対応が学生から求められており、次年度以降の課題としたい。以上のことから、本年度以上の講義展開が実施できるよう各教員との連携をより密にして進めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		社会福祉原論 I	65名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

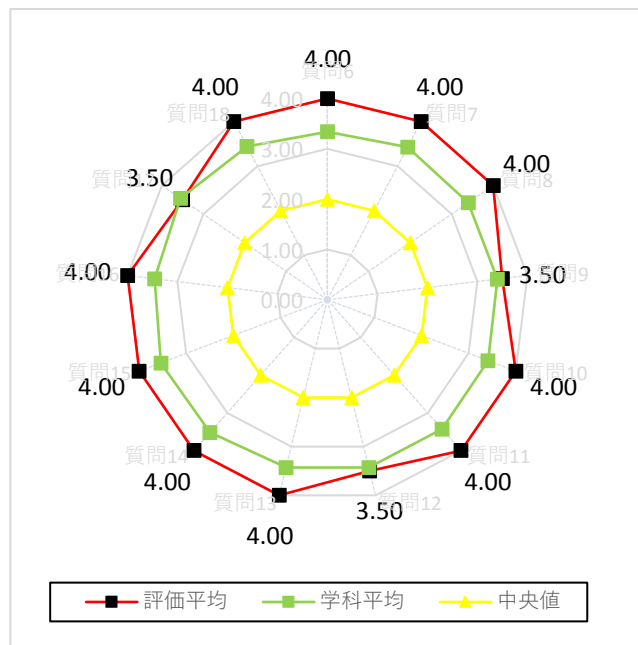
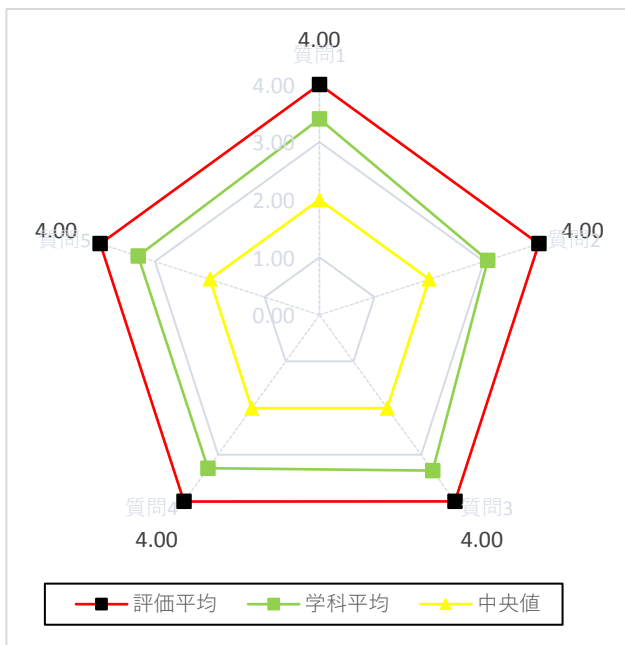
特にどの項目が低いとか高いということがなく、すべての項目で平均的な評価であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

今後は、平均以上の評価をしていただけるよう、全般的に気を付けることにする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		発展ゼミナール I	14名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

全体的にやや高い。

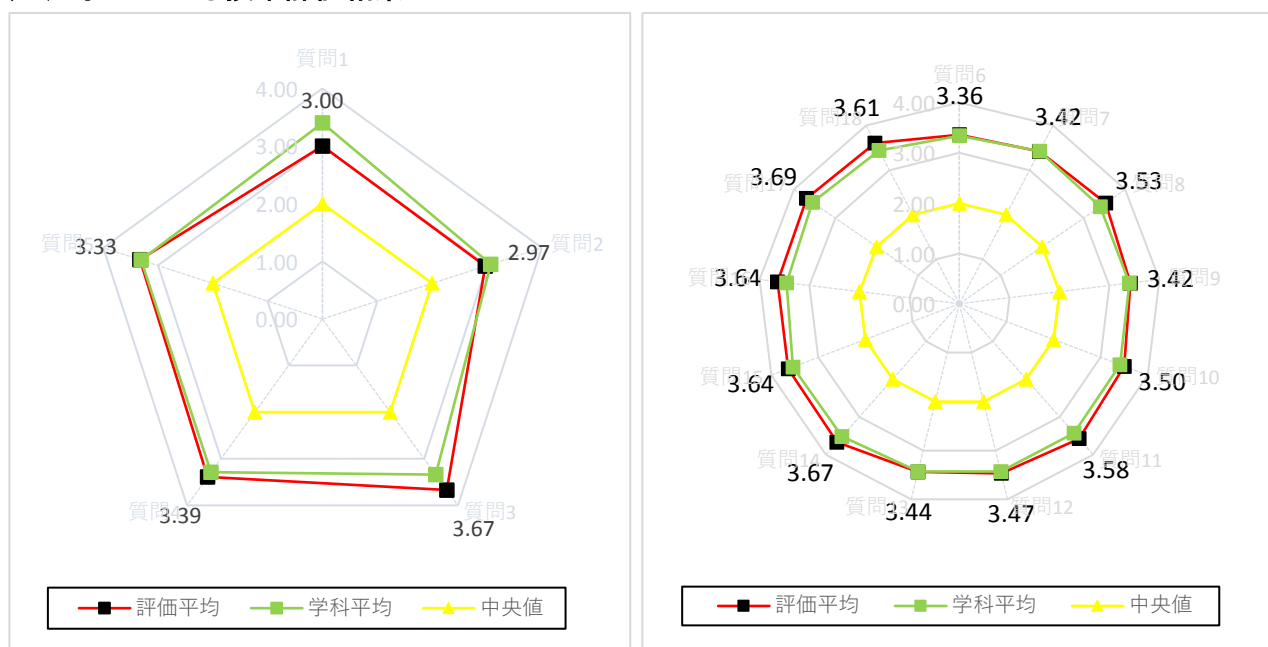
(3) 次年度に向けての取り組み

居眠り・私語対策を充実させる。

質問17「教員は熱心に授業に取り組んでいましたか」がやや低いので、授業中の発言や振る舞いについて見直したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部 リハビリテーション学部	社会福祉 スポーツ健康福祉 リハビリテーション		障害者福祉論	83名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

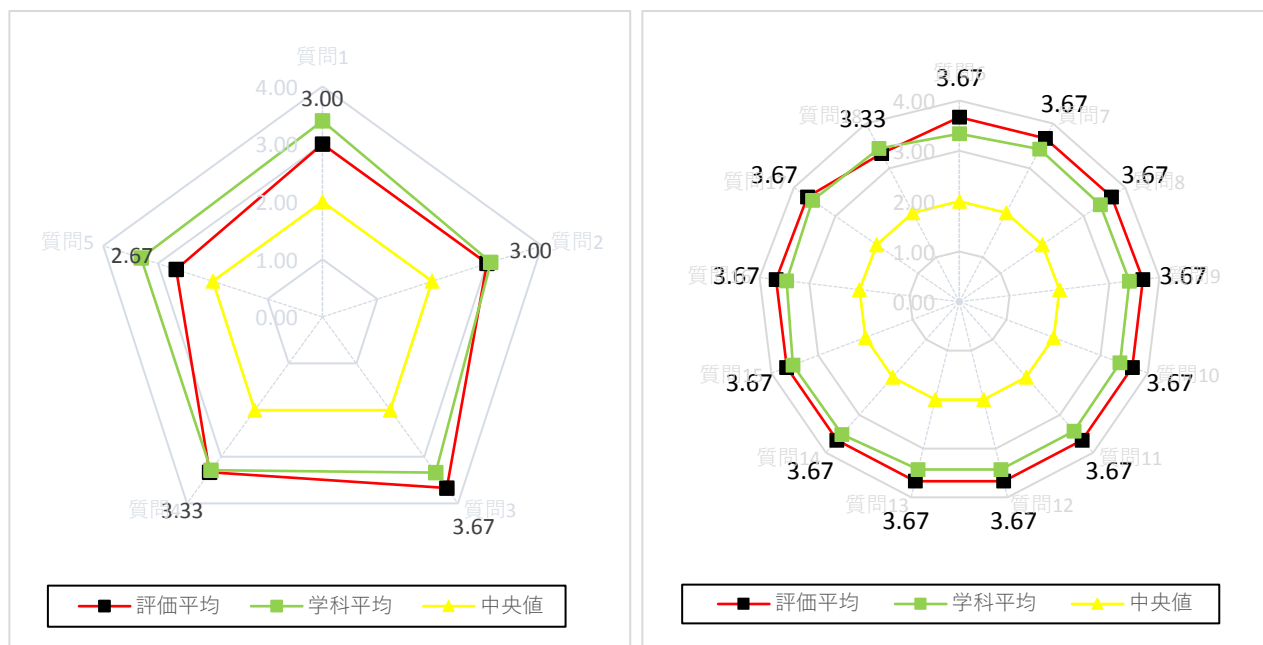
受講学生においては、「授業中に居眠り・私語等せず真剣に取り組んだ」、「本授業を理解するために自分で何か工夫をした」、「自身の総合自己評価」の3項目において、学科平均を上回っており、毎回テキストと参考資料等を持参するよう促した結果も一つの要因と考えられる。一方で、「シラバス（授業計画）を活用した」については、学科平均をやや下回っているため、次年度以降はシラバスの情報を多く取り入れるよう留意が必要である。また、教員への学生からの評価については、学科平均よりも高い評価として①「教員は熱心に授業に取り組んでいた」、②「学生の質問等に誠実に対応した」、③「教員は双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていた」、④「公平に学生に対応していた」、⑤「この授業の総合評価」、⑥「授業の進む速さは適切であった」、⑦「教科書・配布資料等は役に立った」等を含め、全ての項目が学科平均以上であった。この事からも今後も現状を維持しつつ、B票で得られた学生自由記述での要望等も参考にすることが必要である。

(3) 次年度に向けての取り組み

教員への評価としては、全ての項目において学科平均点よりも上位の評価であった。しかしながら、学生自身の評価においては、上記の「(2) 結果の分析と評価」に示した通り、「シラバス（授業計画）を活用した」との回答では、低い結果であった。そのため、次年度以降は、シラバスを意識しつつ、授業達成目標における当日の授業の位置づけや学びの方向等を意識して進めていきたい。また、本科目が社会福祉士国家試験及び精神保健福祉士国家試験受験資格の取得のための必須科目からして、国家試験受験を意識した内容をも取り入れ、本科目の国家試験受験において合格点に達するように意識したシラバスを際に構成し、過去問題や模擬問題等を平常の授業にも積極的に取り入れたい。このことから、専門職として必要となる知識と実践に活用できる社会資源の理解に結び付けるように創意工夫を図りたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		発展ゼミナールⅢ（含卒業研究）	10名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

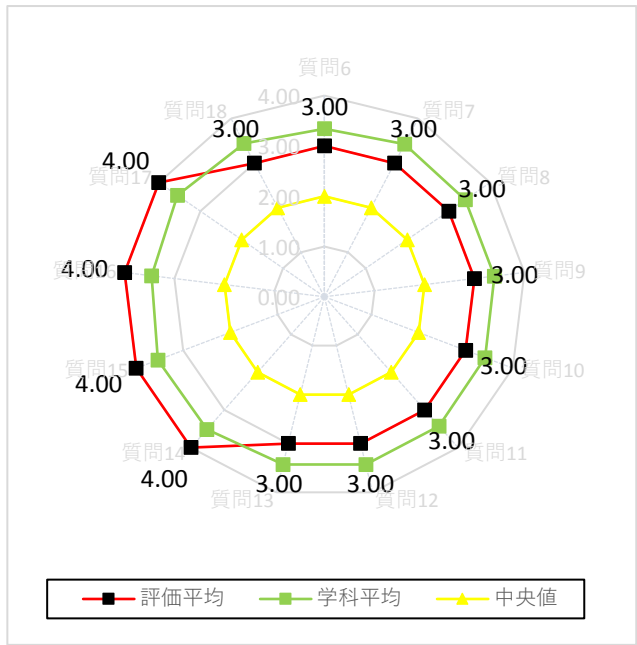
学生の自己評価においては、「授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組めた」「本授業を理解するために自分で何か工夫をした」の2項目において他項目に比して高い自己評価をしていた。一方で、「自身の総合自己評価」は低い自己評価であった。しかしながら、成果物である卒業論文は9割以上のゼミ学生がアンケート調査等を実施しており、ある学生においては、アンケートの量的調査に加えて質的調査となるヒアリング調査も実施していることから本学科内に提出された当ゼミ卒論では提出枚数をも含めて、決して低くない成果物（卒論）であった。当初の目標が当ゼミの先輩方の卒論を目標に作成することを念頭に卒論執筆を進めた事から、過去の良的な卒論と比較して「自身の自己評価」が低い結果に導かれたと考える事もできる。さて、教員の指導については、全項目共に学科平均点を超えている。このことから次年度もテキスト、当ゼミ卒業生における卒論及びグループワークと個別指導を取り入れながら卒論ゼミ指導を進めていきたい。

（３）次年度に向けての取り組み

本年使用のテキストを用いて、2年間かけて論文作成について詳細に確認していきたい。また、広い社会福祉の分野において、社会保障や公的扶助並びに地域福祉等のジェネリックな間口を通して、奥行き深い対象論（児童福祉、障がい者福祉、高齢者福祉等）においても周辺の社会資源を通して、その機能や役割等を詳細に調べ現代社会における諸課題や特性等を概観できるよう学習に努める。特に本年度は自身の総合自己評価が低かったことから「自己評価」点検を踏まえた、進度確認ができるように工夫を試みたい。なお、次年度における教員の関わりにおいては、概ね学科平均点よりも高いことから上記（２）項目でも示したとおり、当ゼミ卒業生における卒論及びグループワークと個別指導を取り入れながら卒論ゼミ指導を強化していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		倫理学概論	14名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

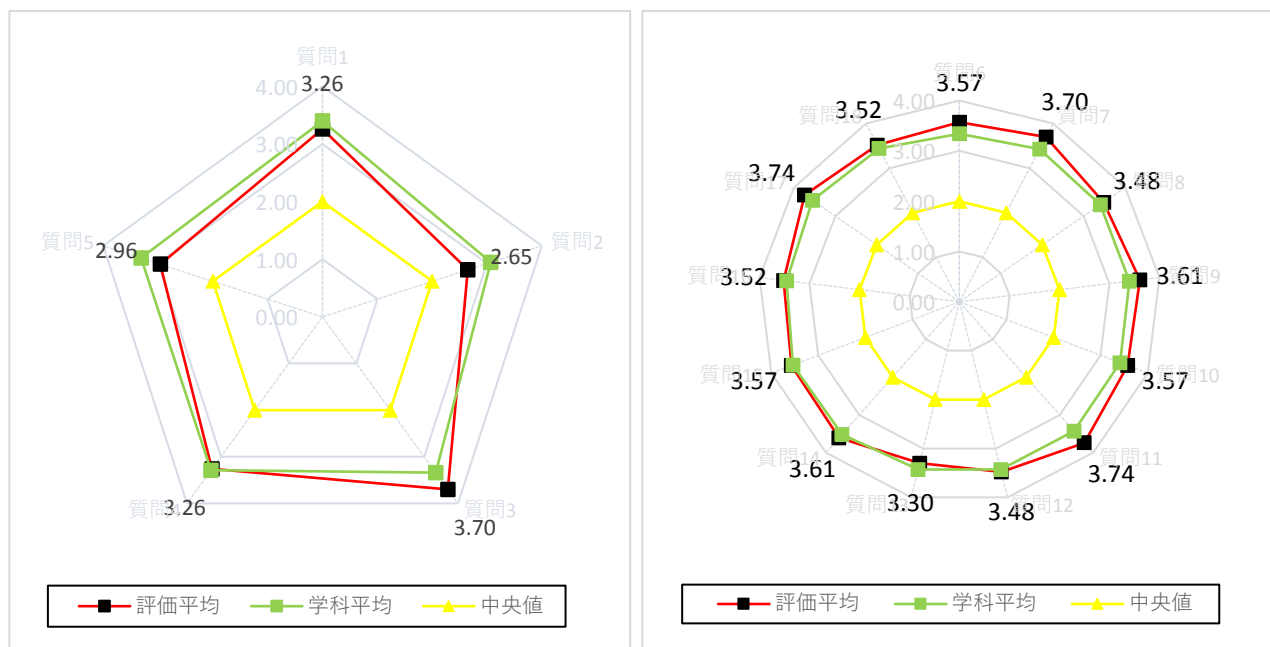
履修者 14名中回答者 1名のため分析評価が行えない

(3) 次年度に向けての取り組み

回答に対する意識付けをおこなう。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		相談援助の基盤と専門職 I	53名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

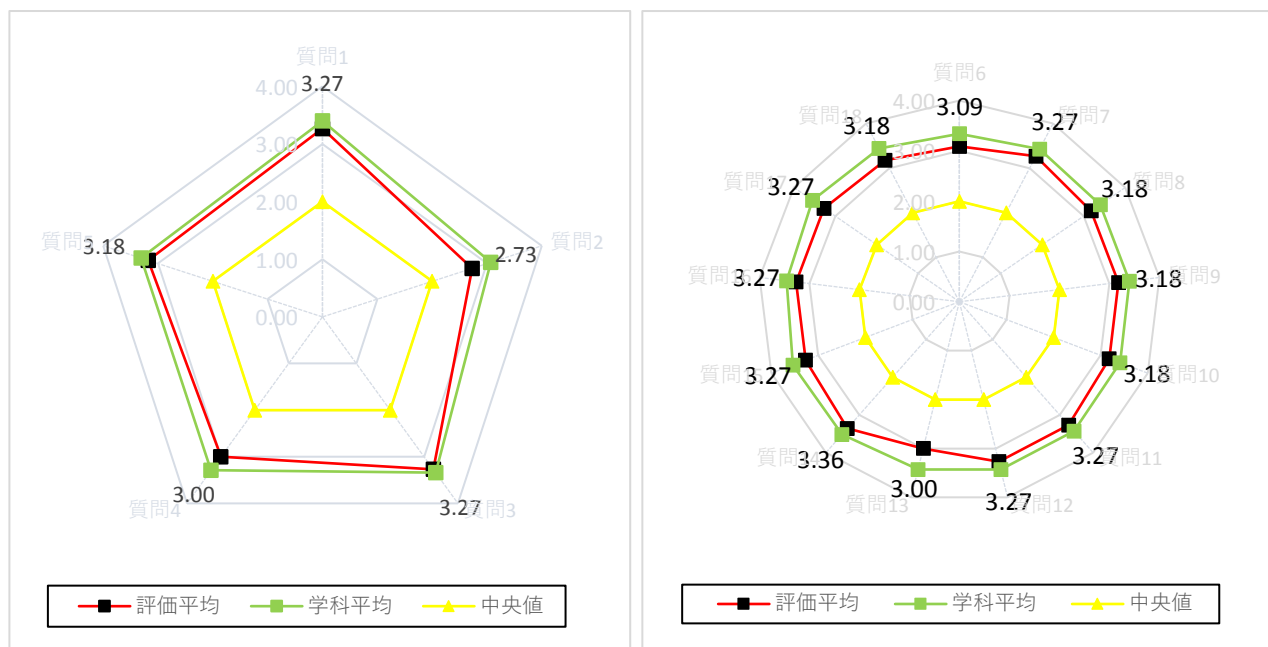
学生の自己評価としては、「授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組んだ」が最も多かった。一方、「シラバス（授業計画）を活用しましたか」が最も低かったことから次年度は、シラバスを複数回周知し、全授業課程における毎回の授業の位置づけなどを示すことでモチベーションの向上につなげたい。また、教員評価においては、「授業の進む速さは適切だった」が社会福祉学科の平均値と同じ評価であった。しかし、それ以外の12評価項目全てにおいて社会福祉学科の平均値以上の評価であった。特に高評価としては、高い順から①「教員は熱心に授業に取り組んでいた」、②「教科書・配布資料等は役に立った」、③「教員は授業の到達目標を明確にして、授業を展開していた」、④「授業は分かりやすくする工夫がされていた」、⑤「学生の質問等に誠実に対応した」の順であった。特に社会福祉士国家試験に準じた指定教科書と関連資料を毎回持参するよう促し、その都度、専門用語の解説など、視覚的に共通資料を通して学習した点がこれらの高評価に結びつくと考えられる。今後もB票の個人自由記述意見をも参考にしながら教授法の研鑽に努めたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度においては、上記の(2)結果の分析と評価を通して、上記のとおり、本科目においては、社会福祉士国家試験に準じた指定教科書と関連資料を毎回持参するよう促し、その都度、専門用語の解説など、視覚的に共通資料を通して学習した点がこれらの高評価に結びつくと考えられる。今後もB票の個人自由記述意見をも参考にしながら教授法の研鑽に努めたい。なお、教員評価では、「シラバスについて説明があった」とする回答は社会福祉学科平均以上であったものの、学生自らの自己評価においては、「シラバスを活用していない」との回答が同学科平均以下であったことから、上述(2)項目でしめしたとおり、次年度の授業実施においては、シラバスを複数回周知し、全授業課程における毎回の授業の位置づけなどを示すことでモチベーションの向上につなげたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		相談援助の基盤と専門職Ⅱ	48名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

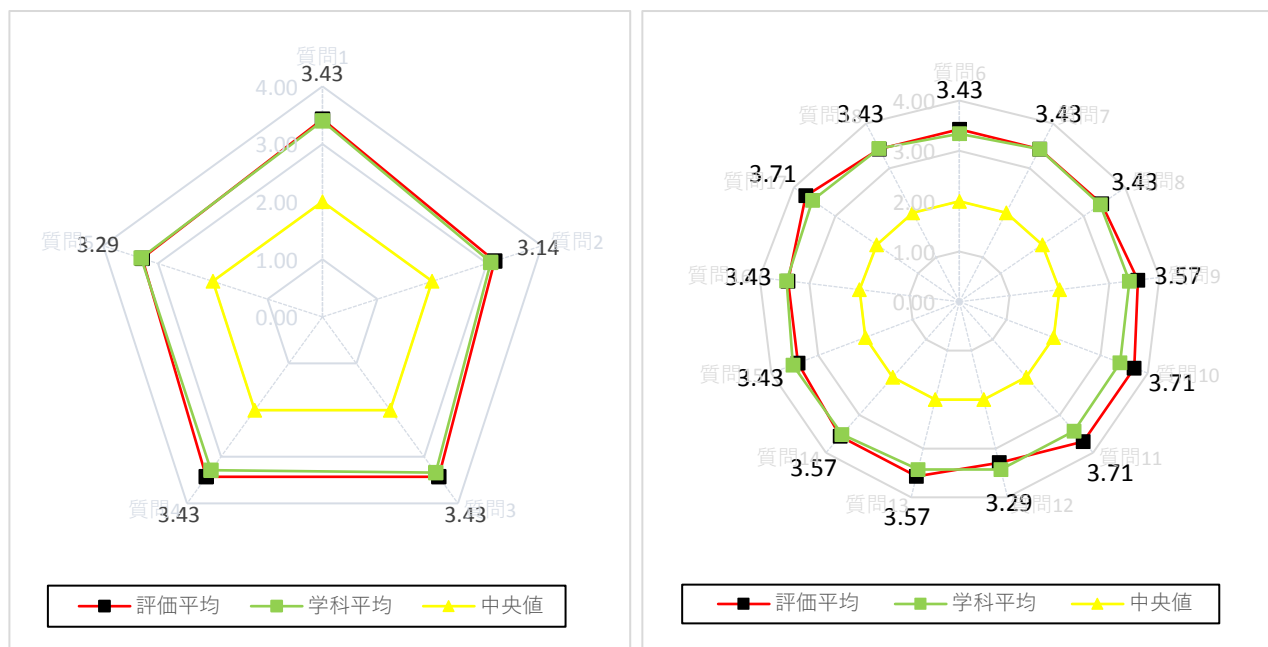
学生の自己評価としては、「授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組んだ」が学科の平均を以上に高かった。一方、同科目Ⅰと同様に「シラバス（授業計画）を活用した」が最も低い結果であった。このことから次年度は、シラバスを複数回周知し、全授業課程における毎回の授業の位置づけなどを示すことでモチベーションの向上につなげたい。また、教員評価においては、同科目Ⅰに比して社会福祉学科の平均値とほぼ同様の傾向であった。特に「学生の質問等に誠実に対応した」においては、毎回授業のポイント毎に確認を行い、授業の最後には全体を振り返った質問の機会を提示していることの現れと考えられる。なお、「授業の進む速さは適切であった」については、最も低い数値であった。B票の学生個人による自由記述回答では、授業スピードが速いと感じている学生と遅いと感じている学生が二極しており、認知度の差が明らかである。この点は、次年度から授業の始まりに前回授業の質問時間を設け、同時に予習等を促すことで改善に努めたい。また、同科目Ⅰ同様に社会福祉士国家試験に準じた指定教科書と関連資料を毎回持参するよう促すことで学習意欲の喚起に繋げたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度においては、上記の(2)結果の分析と評価(A評価)及び別途実施の学生個人自由記述(B評価)を通して、授業スピードの速さの問題で個人差が生じていることから次年度から授業の始まりに前回授業の質問時間を設け、同時に予習等を促すことで改善に努めたい。また、同科目Ⅰ同様に社会福祉士国家試験に準じた指定教科書と関連資料を毎回持参するよう促し、その都度、専門用語の解説など、視覚的に共通資料を通して学習することが効果的であったことから今後も引き続き教授法の研鑽に努めたい。なお、学生自らの自己評価においては、「シラバスを活用していない」との回答が同学科平均以下であったことから、上述(2)項目で示したとおり、次年度の授業実施においては、シラバスを複数回周知し、全授業課程における毎回の授業の位置づけなどを示すことで更なる学習意欲の向上を意図的に促したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		相談援助の理論と方法Ⅱ	59名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

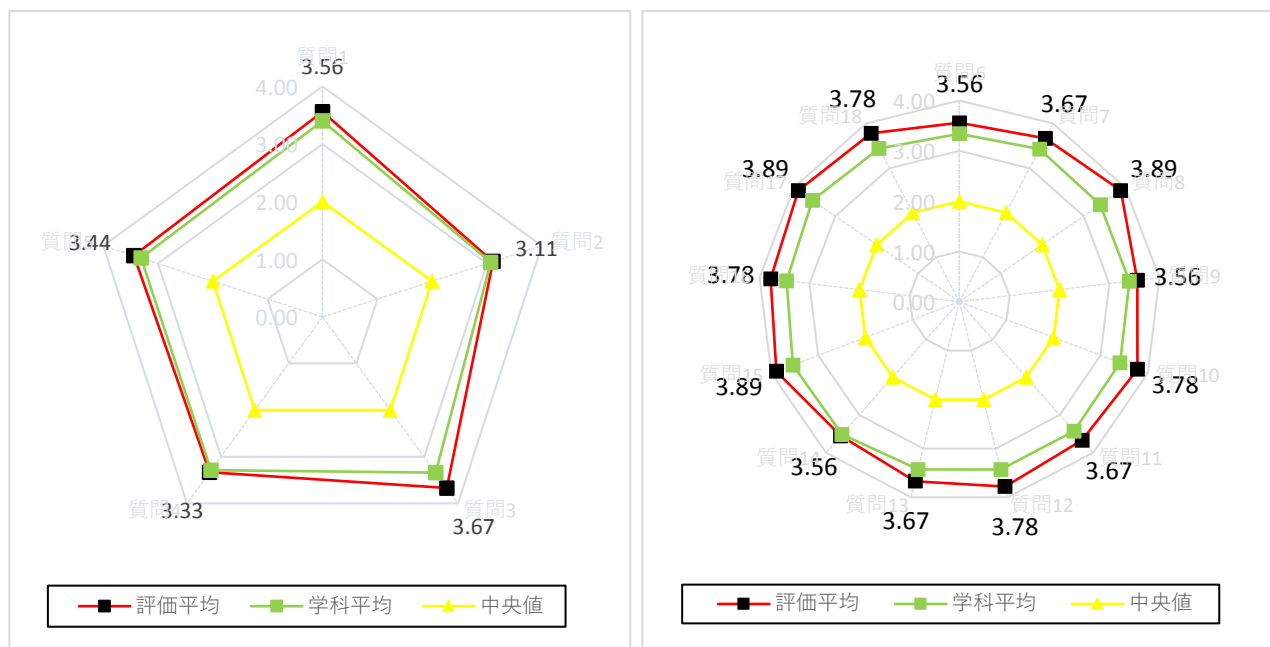
回答者数が7名と全体の1割強の回答しか得ることができなかった。その要因については、アンケート協力をお願いのみであったことと考える。評価については、概ね学生及び教員への評価について学科平均以上の評価であった。またほとんどの項目が評価3以上とどちらかという「よい」評価を受けているが、否定的な評価がしにくい心理などを踏まえ、安易な評価はできないと考える。サンプル数から全受講者の意見とはいいがたいが、評価2の回答をした学生が1名いたことに対しては、課題意識をもつ必要がある。特に質問16の双方向的なやりとりをした授業については、演習や質問の時間を確保し、声掛けなどをしてきたが、その声掛けに偏りがあった結果と考える。学生の受講態度については、評価3が多かった。学生の受講態度は、学生の意識や生活習慣などに加え、「授業に興味・関心を持たせること工夫」といった教員側の課題もあると考える。良かった点としては、視覚機器やホワイトボードを用いながら情報の保障をしたこと、教員としての授業姿勢が評価が高かった。このことは今後も継続していきたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

評価の高かった視覚情報の保障や教員の授業態度（熱心さ、誠実さ）については、自身の強みとして大切にしながらも、より理解できた・関心を持つことができたといった結果につながるような工夫をしていきたい。PPTの利用は、資料としても助かるとの声があるが、静的な情報にとどまっている。ホワイトボードや動画などの教具を用い動的な情報も有効活用することで学生の認知を刺激したい。アンケートへの回答率の低さの改善のため、講義中に回答の時間を確保したり、協力依頼を繰り返すなどの工夫をし、多くの受講者の意見を取り入れ、授業に生かせるような仕組みをつくっていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		相談援助演習 I	19名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

本科目では、相談援助に必要な基礎的な知識を身につけることを目的に演習やロールプレを中心に授業を行った。

学生は、コミュニケーションの基礎（言語的、非言語的コミュニケーション）について体験的に学ぶとともに、自分自身のイメージについて客観的に考えることができた。さらに、地域社会で暮らす一員として、地域社会で支援を展開していくソーシャルワーカーとして、社会における多様な価値観について考え、地域社会と人々の生活の関連について考える機会を持つことができたと思う。

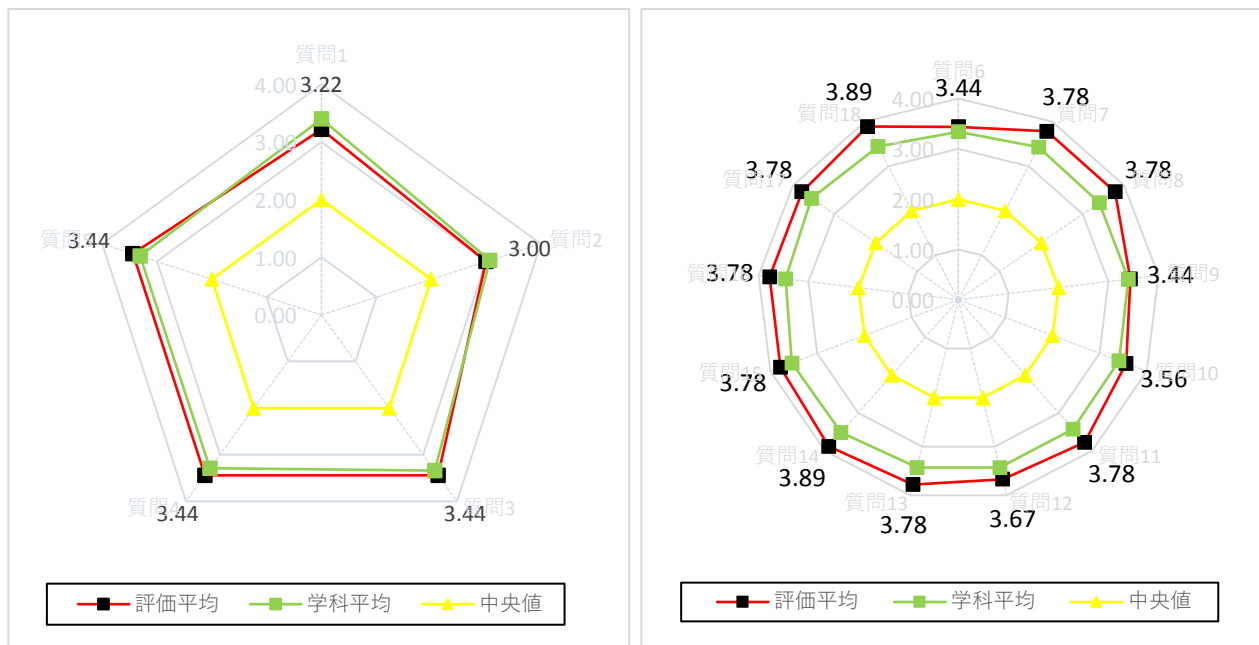
また、地域資源（自治組織や医療福祉関連施設・サービス等）を知ることを通して、相談援助職をイメージし相談援助の実際を感じ取ることができたと思う。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、学生が相談援助職としてのイメージをさらに意識することができるように、新聞やニュースなどから話題を提供したり、視聴覚教材を適宜使用したりしながら授業を実施したい。また、双方向的なやり取りをしながら学生に発言を促し、学生が主体的に参加できる授業を実施したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		相談援助演習Ⅱ	14名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

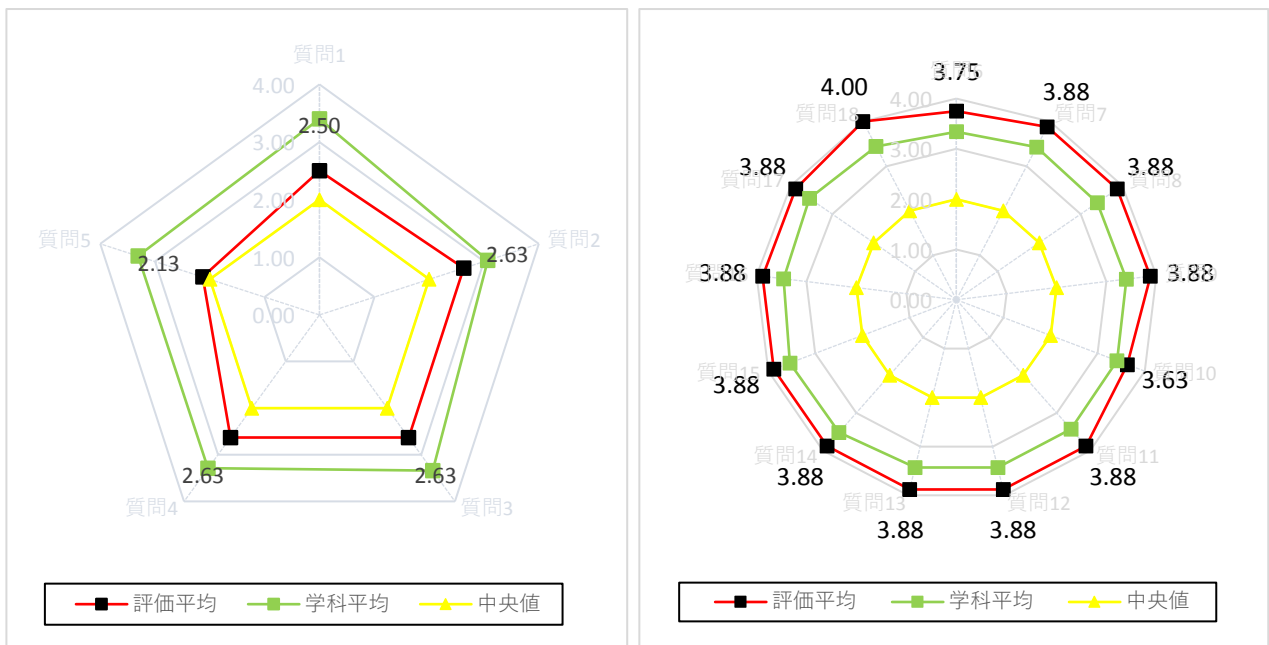
本年度よりはじめて非常勤講師を担当させていただいた。相談援助演習Ⅱにおいては、シラバス（授業計画）の説明が学生に上手く伝わっていなかった。他の項目は概ね学科平均程であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度以降は、シラバス（授業計画）について意識的に説明していきたい。また、より学生がわかりやすい演習準備と授業に努めていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		相談援助演習Ⅲ	13名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

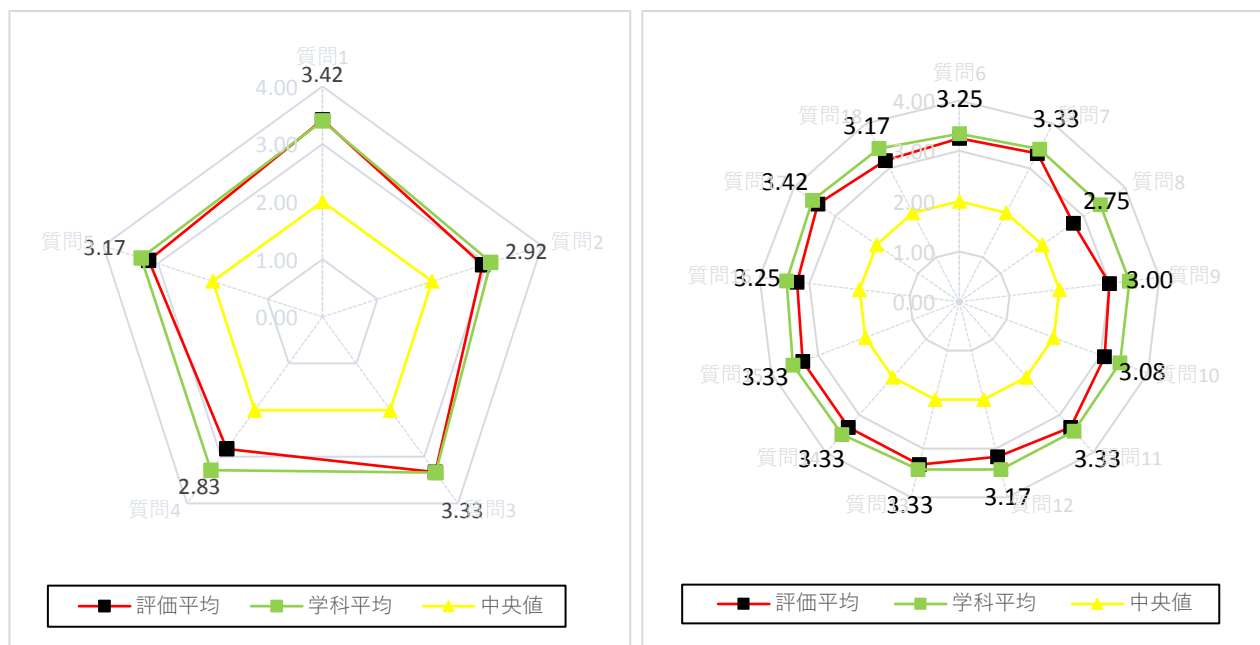
本年度より新たに相談援助演習Ⅲを担当させていただいた。
 質問1～5の値は学科平均を下回っていた。学生の欠席が多く、その点が反映されていると思う。
 質問6～18は学科平均を上回っていた。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生のモチベーションを保つことが上手くできてなかった点を反省し、学生の自己評価が向上するような演習を心掛けたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		相談援助演習Ⅳ	18名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

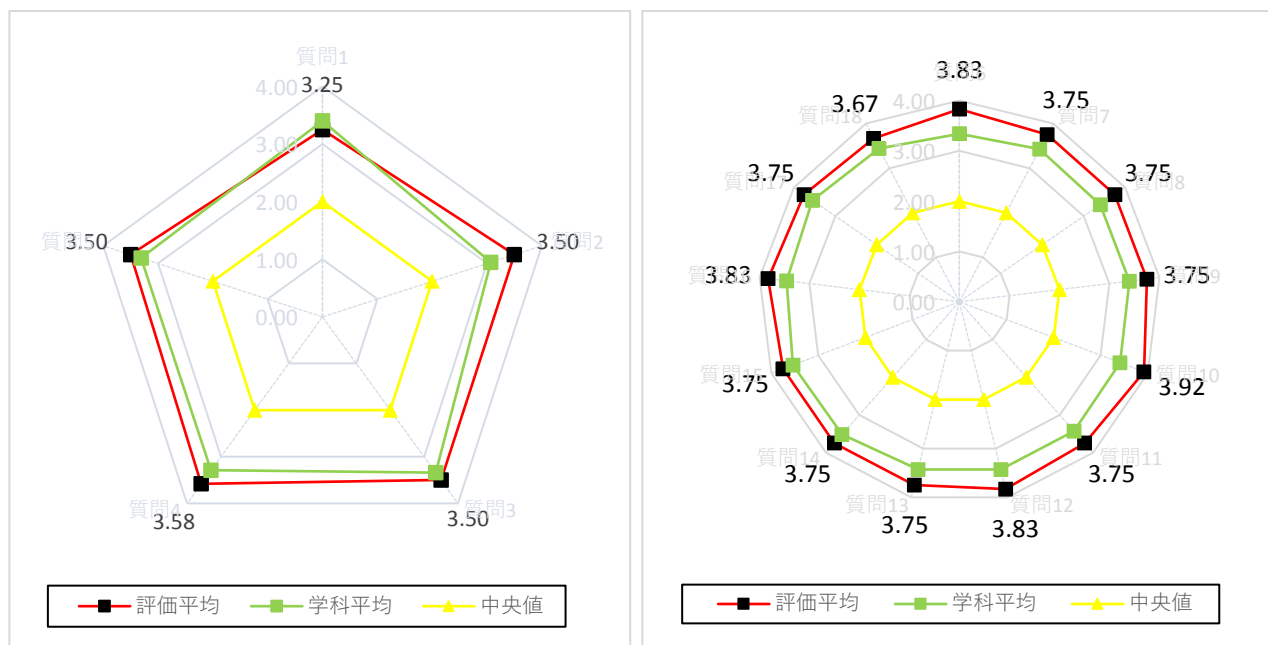
本年度より新たに相談援助演習Ⅳを担当させていただいた。
 質問2シラバス（授業計画）と質問8・9（興味関心と分かりやすさ）値が学科平均より下回っていた。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度以降は、特にシラバスの説明、また学生が理解しやすい演習準備と授業を心掛けていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		ユニバーサルデザイン概論	73名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

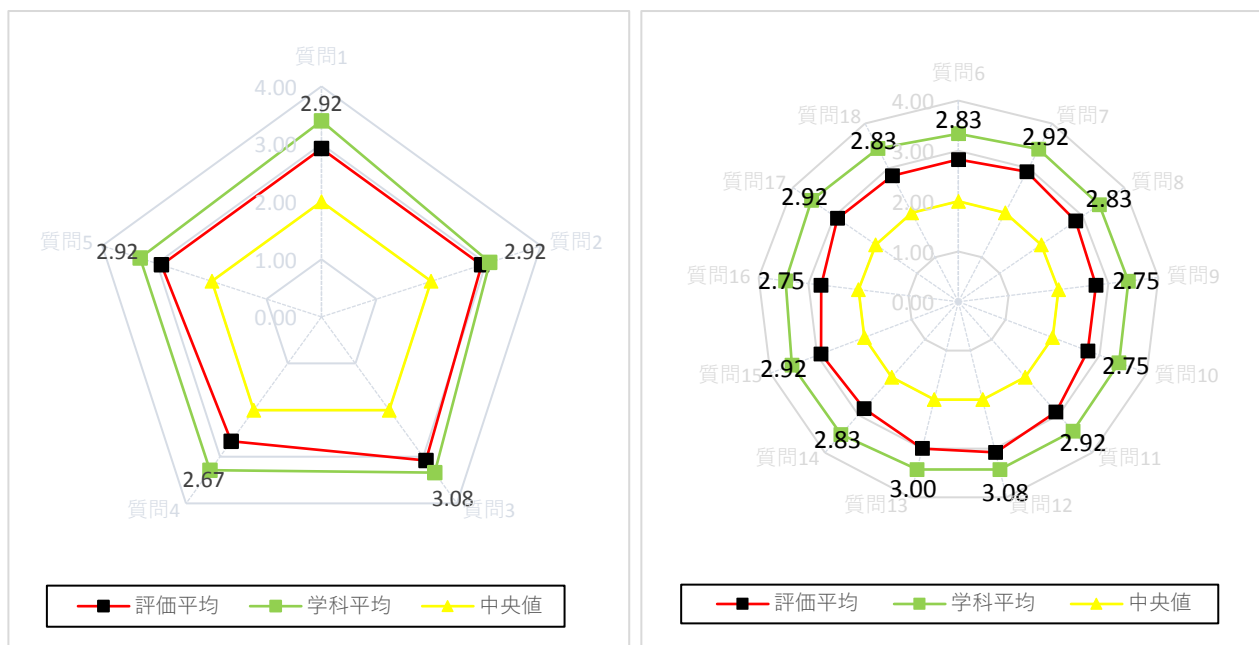
- ・ 学科平均については、学生数が比較的大人数であったので、すべての学生への満足度に不安があったが、平均よりも良い評価であった。
- ・ 遅刻者が多く、授業途中からだらだらと来られる学生が多く授業進行に苦慮した。
- ・ 体験型、実践型の授業に重きを置いたので、昨年よりも学生参加型の授業ができた。
- ・ 授業中に、スマホを操作する学生が多い。他の学生に影響がでないようにアナウンスしているが、授業全体のモチベーションが下がる。
- ・ 学生の質問には、毎回、レポートで質問を受け付けているが、質問数が少ない。
- ・ 欠席対応・試験対応のレポート提出を、教務課にお願いして実施したので、最終評価に間に合ってよかった。
- ・ 1月に教員都合の海外遠征が15日間あり2回ほど休講・延期したが、教務課の御蔭で、学生への連絡・調整がうまくできてよかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 授業全般について、もっと学生が興味を引く内容を考案し、展開していく
- ・ 一方通行の授業ではなく、体験型学習の比率を増やしていきたい。
- ・ UD概論の授業と、UD各論の授業の内容がある程度被ってしまうので、同学年で前期と後期に受講すると同じ内容を受講する場合が2回ほどあったので、今後は、内容を変更していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		多文化ソーシャルワーク	28名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

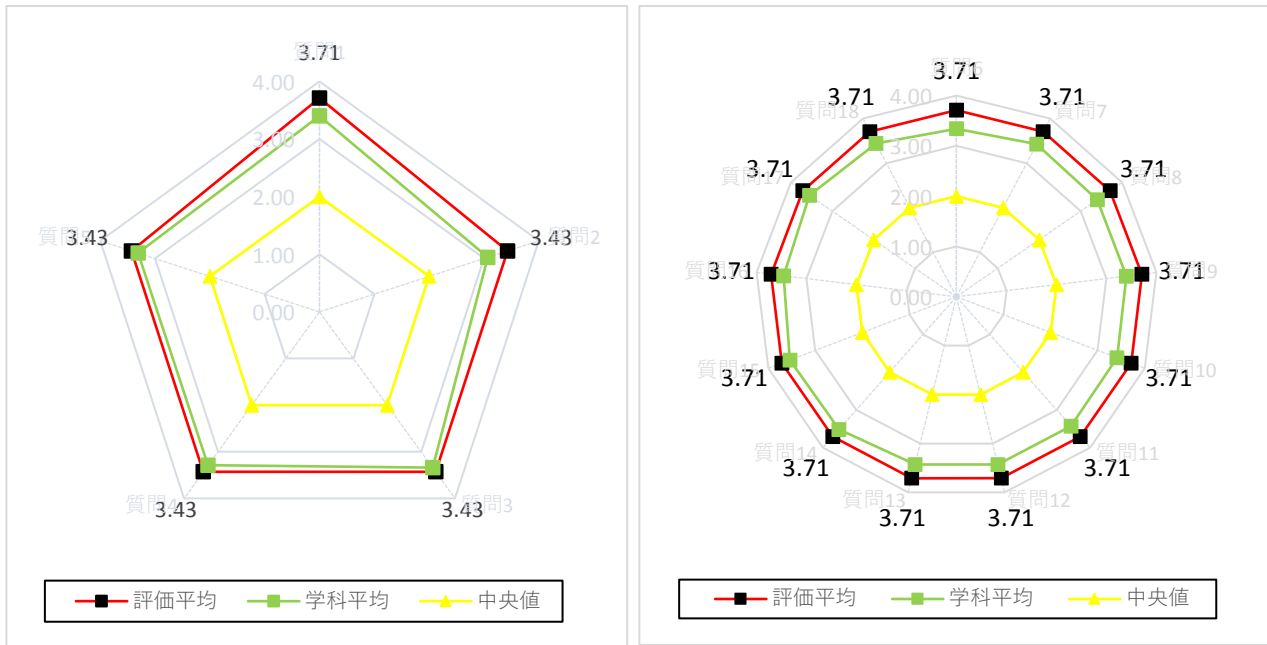
約半数の学生が回答をしてくれている。授業評価は全体的に低迷している。平均が3点に届いていない。コメントにも先生が勝手なことばかり話しており、授業目的がわからないというものがあった。この評価を真摯に受け止めたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業計画を練り直すことによって、全体的な底上げを図りたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部 子ども学部	社会福祉 スポーツ健康福祉 心理カウンセリング		教職実践演習（中・高）	27名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

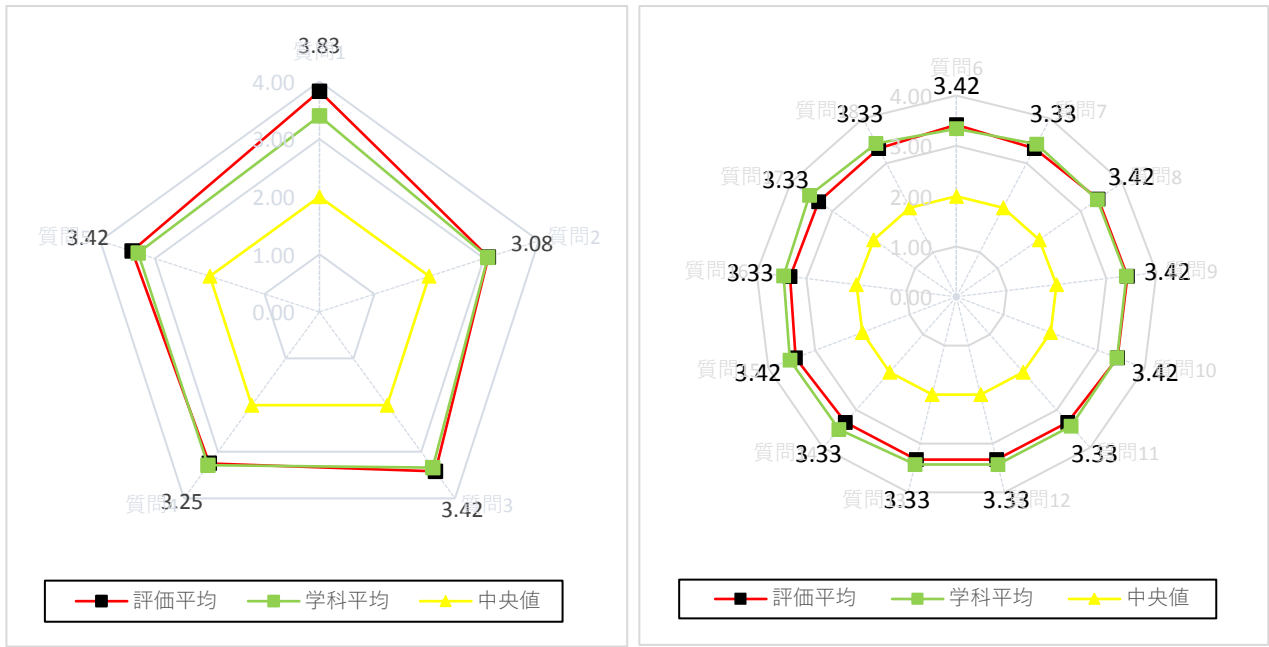
教職課程を履修している4年生が対象であるので、やや高い数値が出ていると考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

より学生の学びにつながるような授業方法を工夫して、改善していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部 子ども学部	社会福祉 スポーツ健康福祉 心理カウンセリング		教育実習事前事後指導	46名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

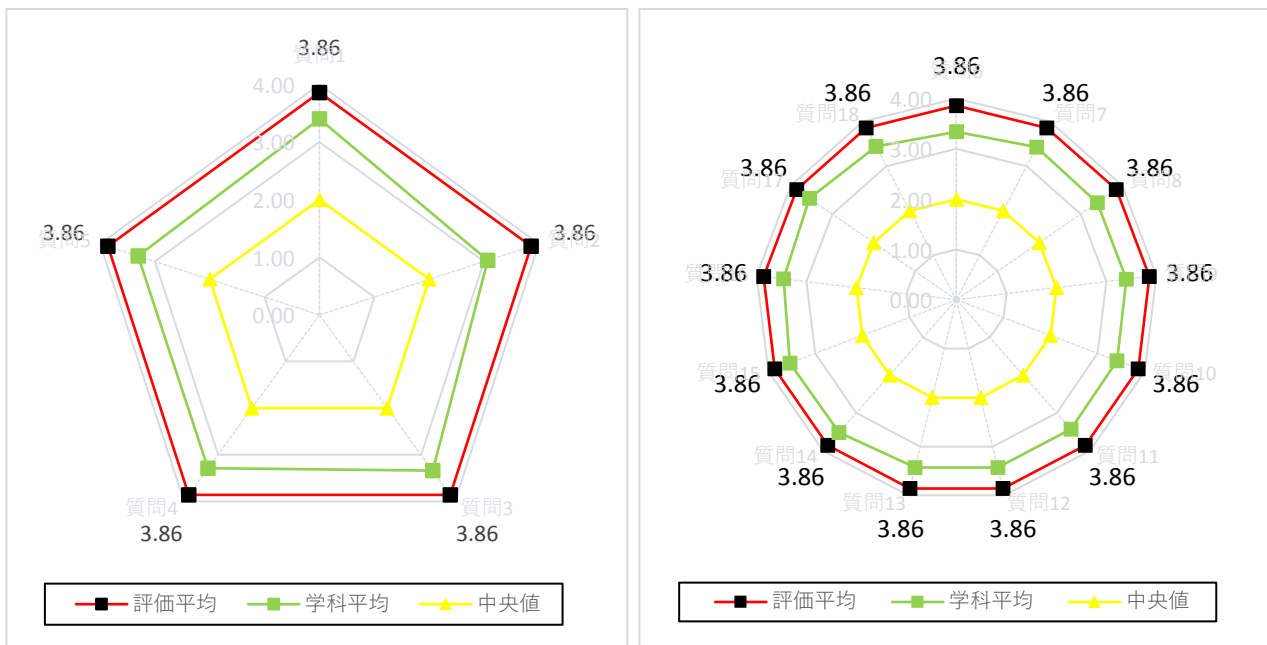
全体的に平均並みである。実習の事前事後指導であるので、評価が難しいところである。

(3) 次年度に向けての取り組み

教育実習に向けて少しでも学生の不安を解消できるような事前指導を行いたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部 子ども学部	社会福祉 心理カウンセリング		教育実習（高）	9名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

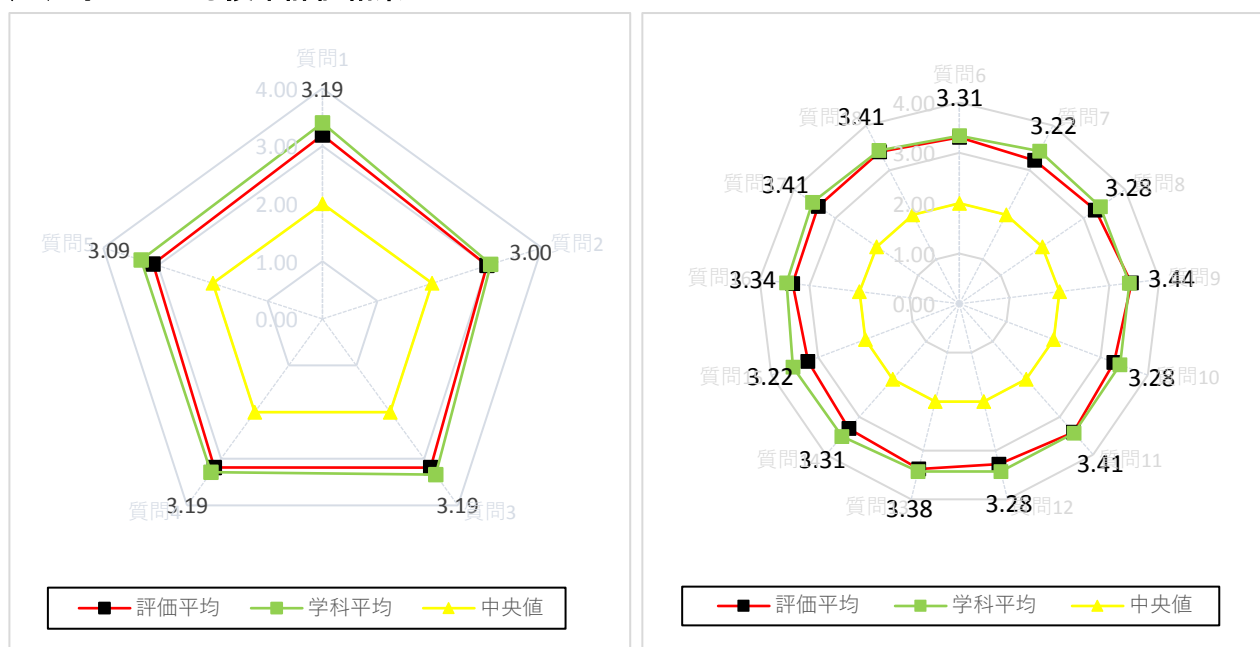
実習科目につき、評価対象としてふさわしくないと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

実習科目につき、評価対象としてふさわしくないと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		アダプテッド・スポーツ 論	40名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

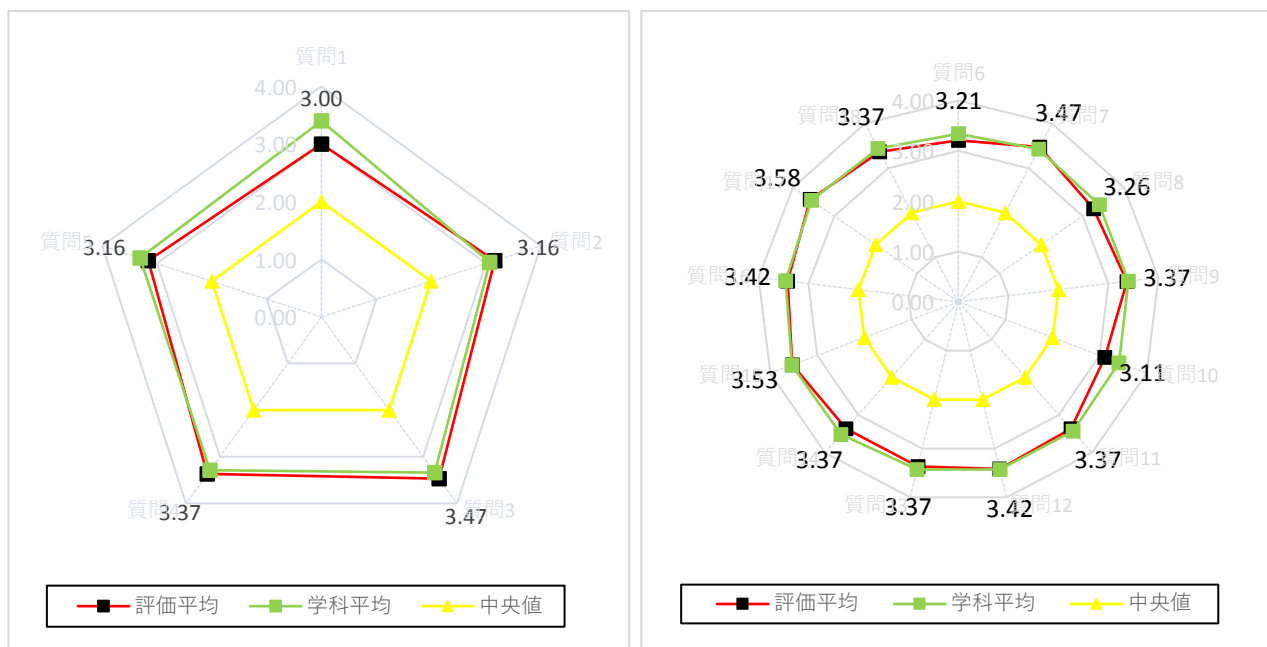
40名中、432名から回答を得た。
 全ての項目で平均並みの評価を得ている。その中でも、質問9「授業の工夫」が若干高く、質問7「到達目標の明確化」と15「公正さ」が若干低い値となった。

(3) 次年度に向けての取り組み

本科目は、2人の非常勤講師にも協力を得ることで障がい者スポーツを通じた全ての人へのスポーツのあり方の理解促進を図っている。
 現在の授業展開に特に問題となる点は見られないが、学生同士の意見交換機会を増やすなど、学生主体の学びをさらに意識して取り組んでいきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		リハビリテーション論	41名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

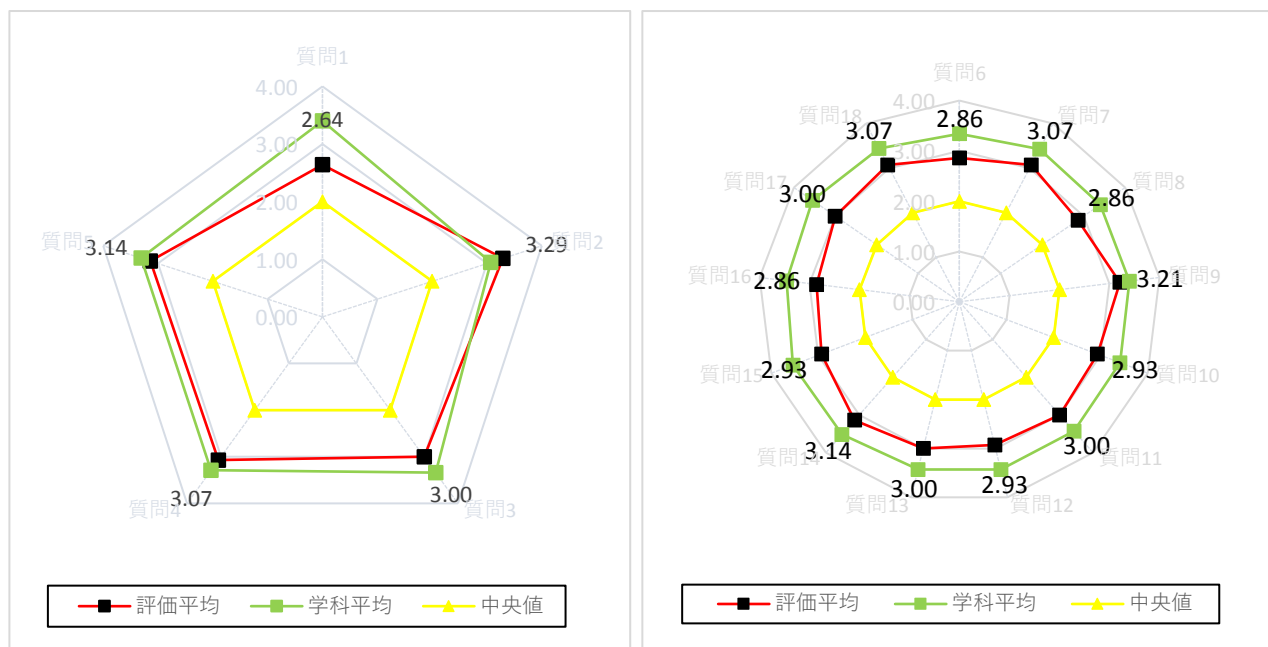
1. 回答率が46.3% [19名/41名] と極めて悪い。
2. 不満と答えた質問：1 (1), 2 (1), 6 (1)。
3. やや不満と答えた質問：1 (4), 2 (3), 4 (2), 5 (2), 6 (1), 7 (2), 8 (3), 10 (5), 11 (1), 12 (1), 13 (1), 14 (3), 15 (1), 16 (1), 18 (1)。
4. 自由記述に記載は無い。
5. 内容が設定されていない質問19?25に回答している学生が各1名。

(3) 次年度に向けての取り組み

1. 回答率の向上を目指す。
2. 講義の最初にシラバスに関する説明の時間を設けて実施している。質問6に不満と答えた学生に対する改善方策は見出せない。
3. やや不満が散見される。特に質問10に5名の回答があったが、講義は全てKeynoteを使用して行っている。板書はKeynoteの内容を補完する程度の使用である。次年度は積極的に板書の活用を図る。
4. 自由記述への記載を促す。
5. 質問19?25までに回答が行われたようなアンケート結果に「次年度に向けての取り組み」を書かなければならないことにむなしさを禁じ得ない。この状況で次年度に向けてのモチベーションを保つための方策は見あたらない。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		健康福祉情報処理	27名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

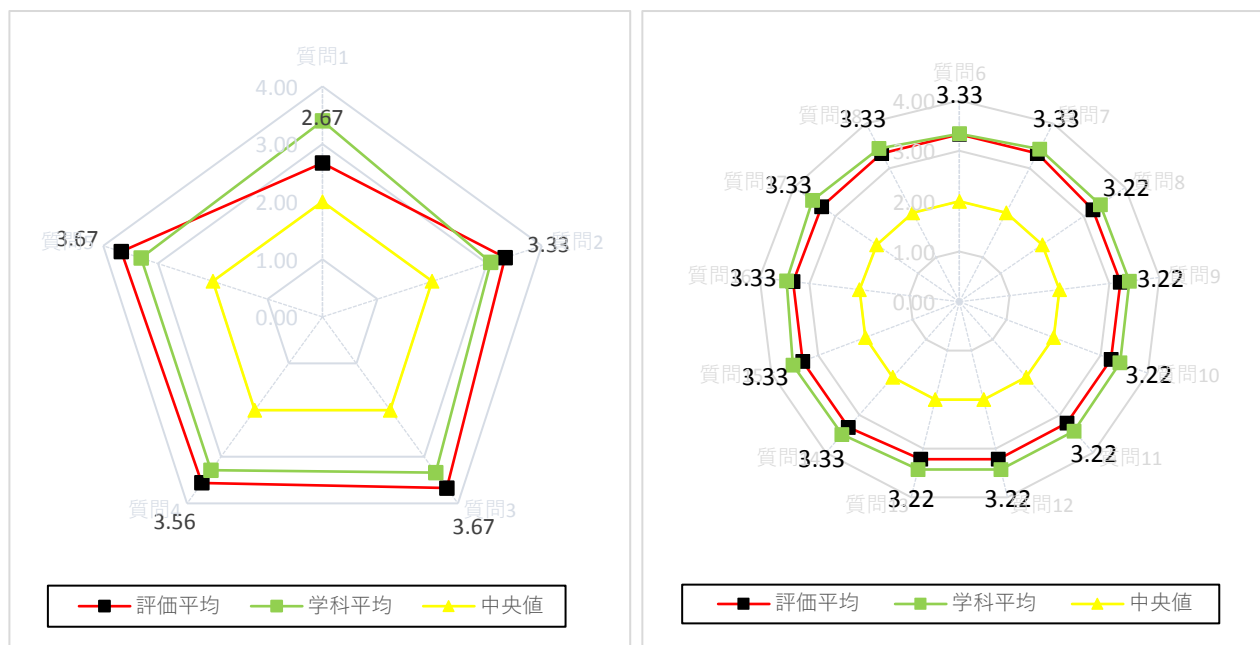
「質問1授業は何回欠席しましたか。」出席状況は、2.5ポイントと低い結果である。
「質問2シラバス（授業計画）を活用しましたか。」シラバス活用は、3.3ポイントと学科平均よりやや上である。
「質問3授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか。」授業中の集中度は、3.0ポイントで学科平均よりやや低い。
「質問4あなたはこの授業を理解するために自分で何か工夫をしましたか。」授業の理解度は、2.9ポイントで学科平均よりわずかに低い。
「質問5あなた自身の総合自己評価」総合判断は、3.0ポイントで学科平均と同値である。
質問6から質問18の教員評価については、質問9の「授業は分かりやすくする工夫がされていきましたか」が学科平均と同値以外は、すべてやや低い傾向にある。

(3) 次年度に向けての取り組み

(2)の結果の分析と評価の値から、学生はおおむね受講態度がよいと思われるが、教師評価において、質問9の「授業は分かりやすくする工夫がされていきましたか」以外では低い値となっており、次年度は、授業中の机間巡回などを多くして、個々の受講生の質問に対応したり、双方向なやり取りを増やしていくことに取り組みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		健康福祉統計法	42名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

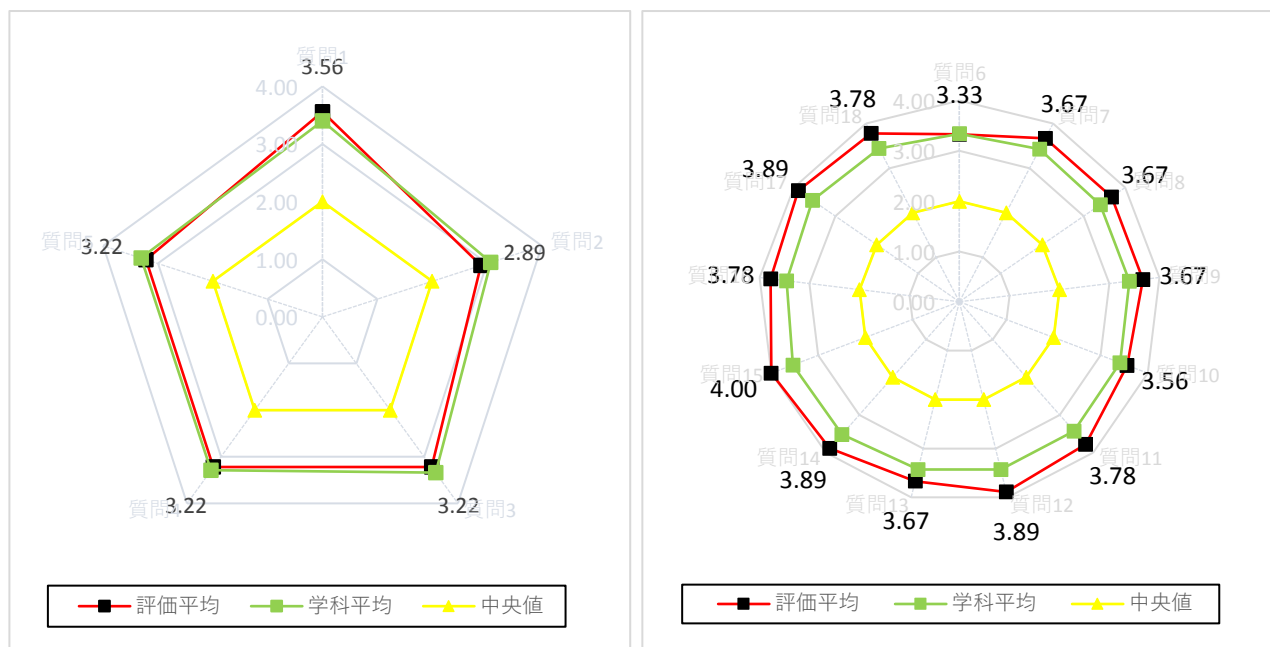
質問1から5までの受講生の自己評価では、「質問1授業は何回欠席しましたか。」は学科平均を下回っているが、それ以外は上回っている。
 質問1から質問18の教師評価では、ほぼ学科平均と同値である。

(3) 次年度に向けての取り組み

教師評価について、すべての質問項目について学科評価と同値であり、今後さらに数値をあげていくような受講生ごとの細かな指導を行っていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		ケアマネジメント演習	13名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

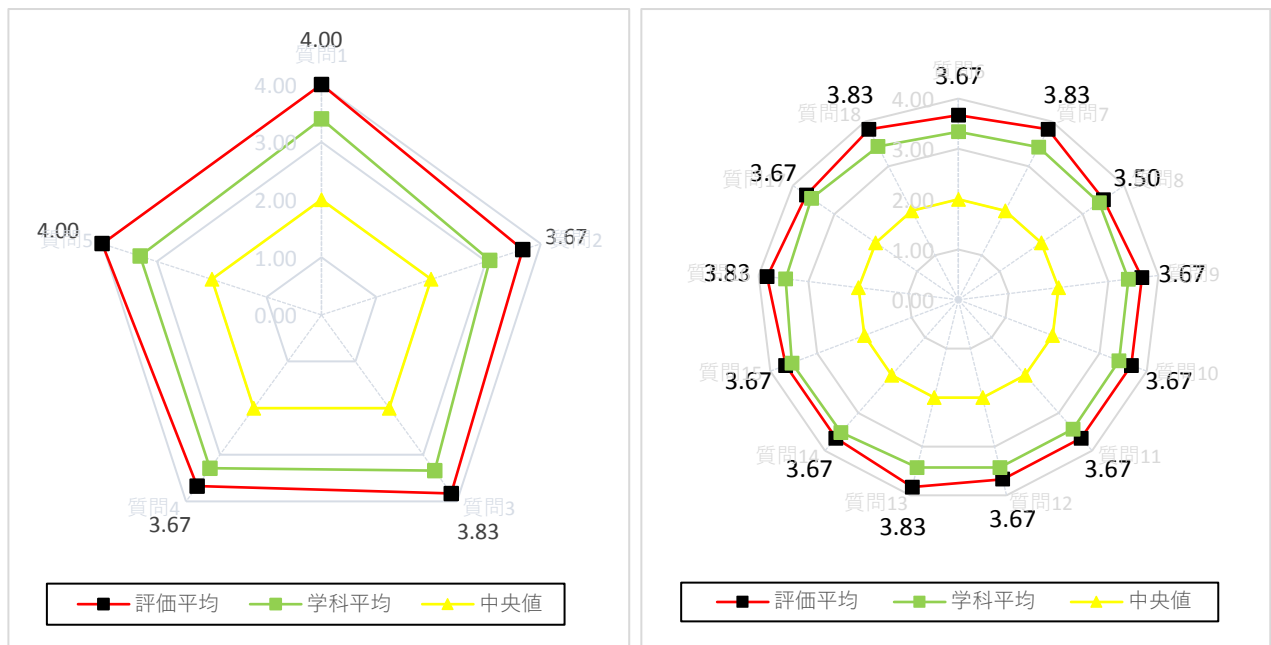
本科目では、介護過程入門から介護過程演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲまでの講義の前提として、ケアマネジメントの考え方について概説した。「尊厳の保持」「自立支援」という基本的な視点を学ぶとともに、支援を必要とする人を生活の観点から捉えることができるように、アセスメントに必要な事項についてディスカッション等を行い、その後、演習事例を用いてアセスメント・計画・立案を行った。学生は主体的な学びを通して、チームアプローチについて理解することができたと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生がケアマネジメントについてより主体的に学ぶことができるように、ディスカッションの機会を増やすとともに映像教材なども効果的に使用していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		レクリエーション支援演習	53名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

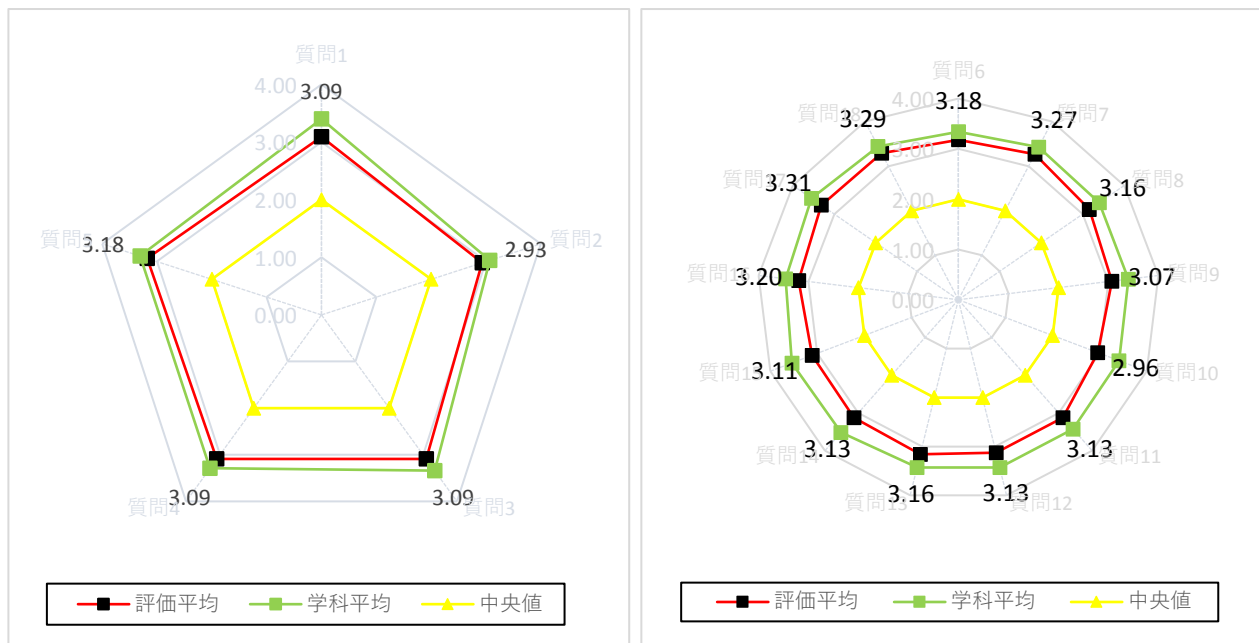
受講生62名中、45名のみからの回答。
 全ての項目で平均以上の3.5を超える評価を得ている。
 日頃、地域で活躍する専門家が講師になっていることが大きく影響していると思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

現在の授業展開に特に問題となる点は見られないが、資格取得に繋がる科目であることから後期の演習科目への円滑な移行をさらに意識して取り組みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		レクリエーション支援論	63名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

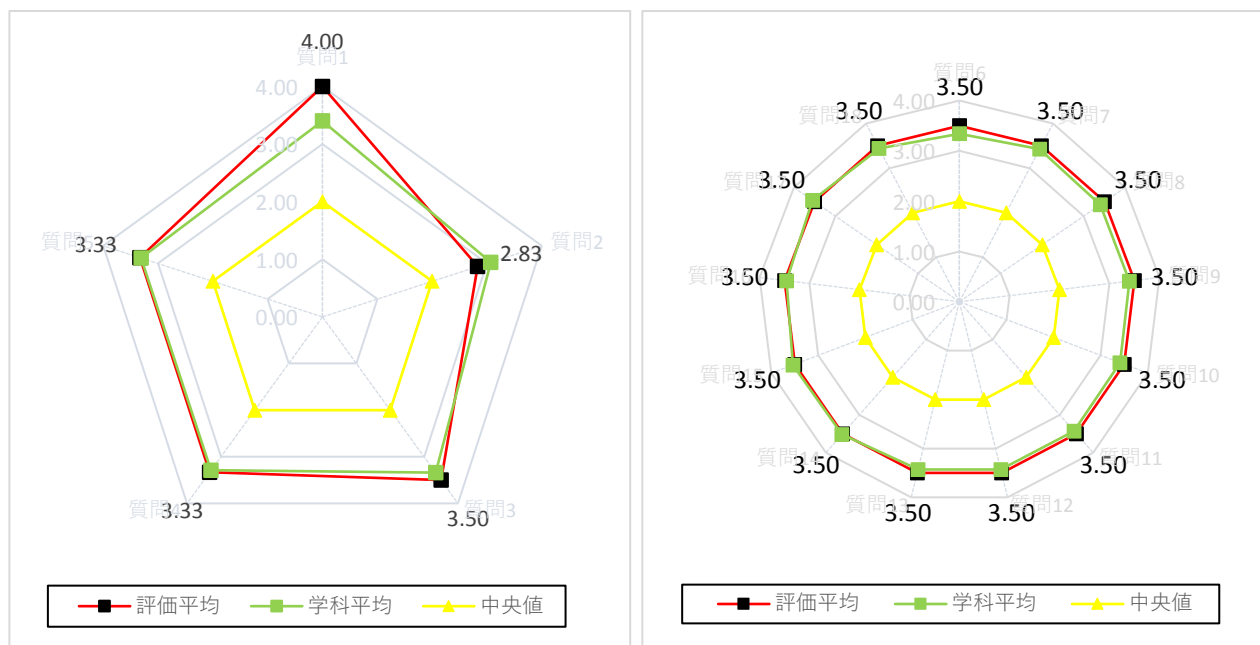
受講生53名中、6名のみからの回答。
 回答者が少ないことからあくまでも参考として捉える必要があるが、全体的に平均を下回る評価となっている。
 レクリエーション資格取得に必要な科目であり、テキストをもとに進めていることから、教員からの単方向の授業になっていることが要因として考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業中に学への問いかけや学生同士のグループワークを導入し理解度の確認と学びの共有を行える時間を設定するなど、学生参加型の授業を意識し実践する。
 また、授業毎にミニツツペーパーを導入し、学生の疑問点などに答えるなど、理解度を確認しながら進めていくことにしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		教育実習	35名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

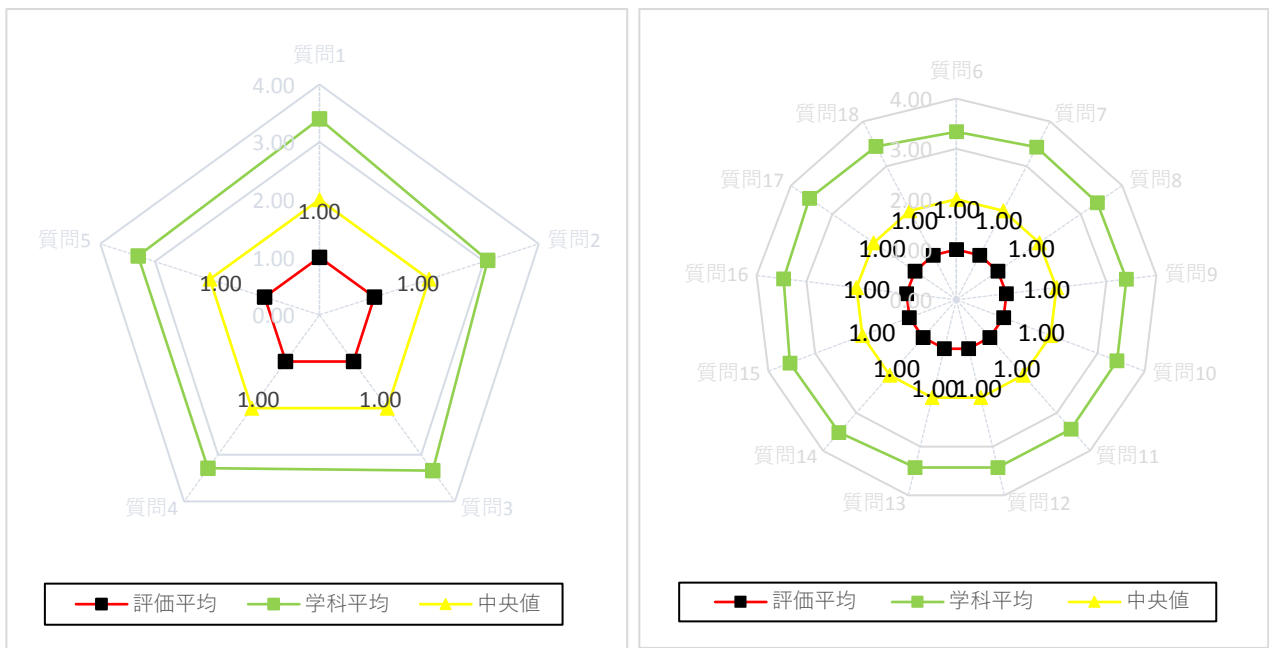
実習科目につき、評価対象としてふさわしくないと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

実習科目につき、評価対象としてふさわしくないと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		健康福祉海外演習	1名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

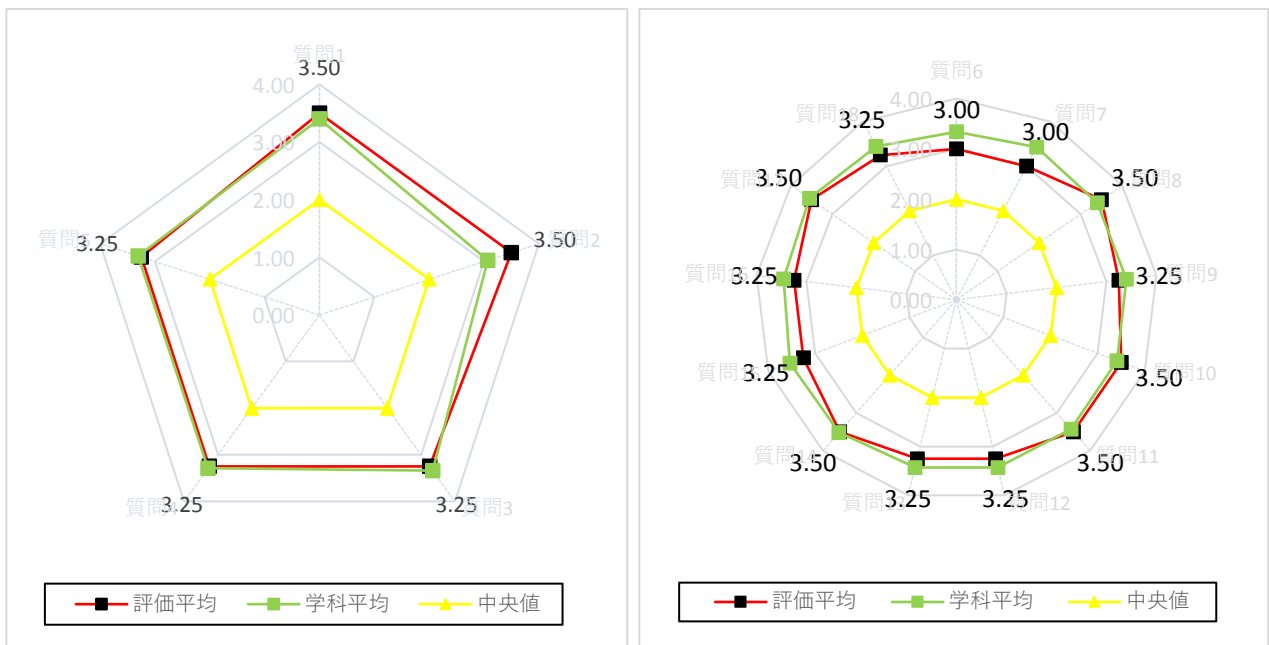
受講者が少ないので、運営が難しい授業であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

留学生など受講生を増やすことで、授業を活性化したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		人権論	26名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

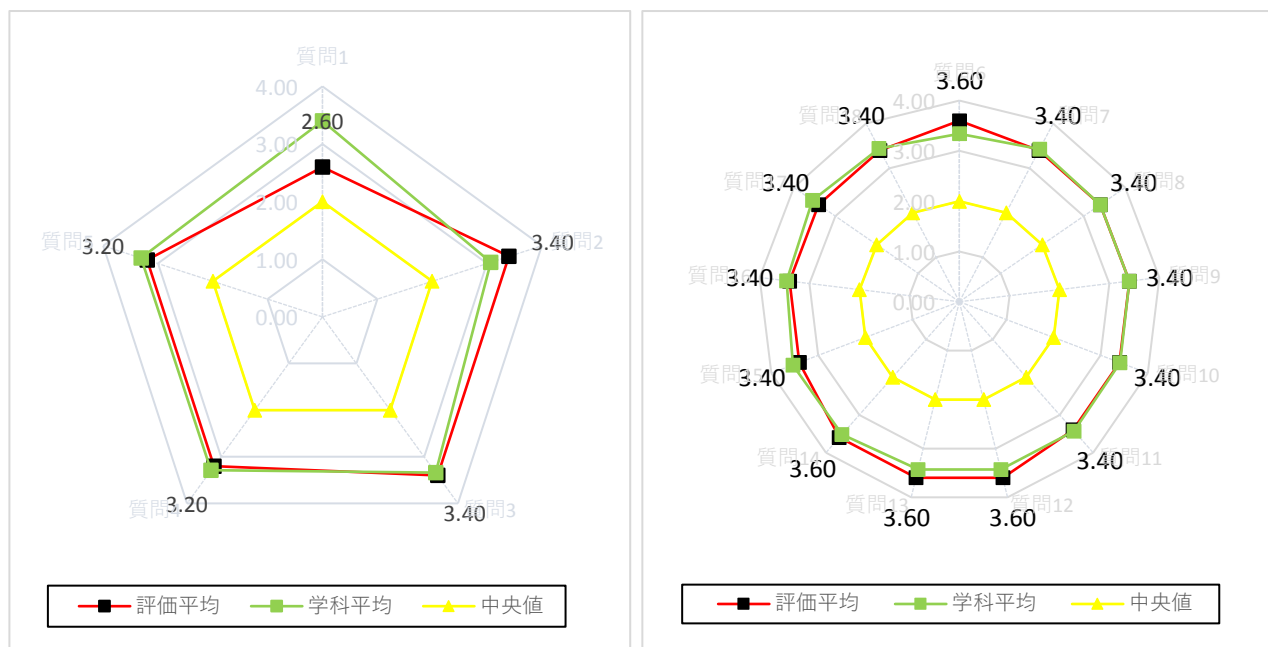
一部の学生を除いて、ほとんどの学生は序業態度もよく熱心でした。

(3) 次年度に向けての取り組み

アクティブラーニングに一層、取り組みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		社会福祉特講Ⅱ	26名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

学生の自己評価においては、「シラバス（授業計画）を活用した」が最も高く、次いで「授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組んだ」が高い結果であった。この事は、本科目が社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験対策を主とする授業内容からも学生の動機がうかがえる。一方で最も低い自己評価は「授業は何回欠席した」であり、就職活動や得意科目の開催時等においては、不得意科目克服の自主学習に代替したことによると考えられる。さて、教員の評価において「シラバス（授業計画）について説明があった」と「授業の進む速さは適切であった」の2項目について高評価であった。この2項目は、学科平均点からも高く評価されていた。更に「声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切であった」と「学生の質問等に誠実に対応した」についても高評価であり、授業後の学生からの質問等に対する個別指導等の評価が加味されたものと考えられる。記載した以外の8項目すべてにおいて本学科の平均点以上の評価であった。この事は、回答者が上位学年に加えて、上述のとおり国家試験対策科目の位置づけからも学生のモチベーションの現れとも考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

(A) 教員間の授業内容の確認と教材等の共通理解、及び (B) 教授法の教員研修の機会の確保が求めらよう。一方で、(C) 受験対策テキスト執筆者を講師として招聘する事は例年実施しており、学生の深い学びにもつながっていることから次年度も継続開催を予定している。本研修に加えて、例年実施していた受験合宿については、本年度利用予定の佐賀県北山少年自然の家の改修工事による長期利用休止から合宿中止となった。次年度においては、(D) 開催時期や担当科目等も含めて合宿開催に向けた計画（プログラム）の検討が求められる。また、(E) 多数の合格実績を誇る他大学（養成校）の受験対策のノウハウの情報収集や該当の専門教員を本学の受験対策講座講師に招聘する事で新たなヒントを得る機会の検討を試みる。さて、昨年度の卒業予定者と学長を含むガバナンス職員との意見交換会において、本学科学生より受験対策勉強が高校時に比して脆弱との指摘を受けている。本意見を真摯に受け止め、先述の (A) ~ (E) において学科内受験対策委員会等で協議し、学生の合格率向上に向けた取り組みの協議を経て具体的展開を示したい。